

令和2年度 依存症に関する調査研究事業

「ギャンブル障害および ギャンブル関連問題の実態調査」 報告書 | 令和3年8月



独立行政法人国立病院機構

久里浜医療センター

KURIHAMA Medical and Addiction Center

目 次

第1章 調査全体の概要	6
1.1 調査の背景・目的	6
1.2 調査の内容	8
(1) 本調査の全体像	8
(2) 調査(A)「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」概要	8
(3) 調査(B)「ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」概要	9
(4) 調査(C)「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」概要	9
1.3 企画委員会・ワーキンググループの設置	9
(1) 委員会の設置目的	9
(2) 委員会の役割・位置づけ	9
(3) 企画委員会委員運営体制	10
(4) 企画委員会開催内容	11
(5) ワーキンググループの目的	11
(6) ワーキンググループの役割・位置づけ	11
(7) ワーキンググループ運営体制	12
(8) ワーキンググループ開催内容	12
第2章 ギャンブル等依存および関連する問題についての 全国住民調査	13
2.1 調査目的	13
2.2 調査方法	13
(1) 調査対象	13
(2) 調査票の配布および回収時期	13
(3) 調査内容	14
(4) 調査票配布と回収方法、謝礼	15
2.3 回収率および無効回答の定義	15
(1) 回答必須項目の設定	15
(2) 回答ミスの取り扱い	15
2.4 年齢調整方法	16
2.5 分析方法	16
2.6 調査結果	17
2.6.1 対象者の基本属性・背景情報	17
(1) 回答者の性別・年齢	17
(2) 婚姻状況	18
(3) 同居者の種類と同居人数	18
(4) 職業	19
(5) 仕事の種類	20
(6) 学歴	20
(7) 年収	21
2.6.2 ギャンブル行動	22
(1) ギャンブルの経験(生涯、過去1年)	22

(2) 経験したギャンブルの種類（生涯，過去1年）.....	23
(3) 公営競技：主な券の購入方法.....	24
(4) ギャンブルに費やすお金.....	25
(5) ギャンブル開始年齢.....	27
(6) ギャンブルに関する相談先.....	28
(7) 家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響.....	29
2.6.3「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計.....	32
(1) SOGS（SOUTH OAKS GAMBLING SCREEN）による割合の推計.....	32
(2) PGSI（THE PROBLEM GAMBLING SEVERITY INDEX）による割合の推計.....	34
2.6.4「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動.....	35
(1) SOGS 5点以上 - 過去1年間で経験したギャンブルの種類（男女別）.....	35
(2) 公営競技：主な券の購入方法（SOGS5点以上5点未満の比較）.....	36
(3) SOGS 5点以上 - 過去1年間で1カ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）.....	37
(4) SOGS 5点以上 - 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブルの種類（男女別）.....	38
2.6.5「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」.....	39
(1) ギャンブル問題と抑うつ，不安との関連.....	39
(2) ギャンブル問題と希死念慮・自殺企図との関連.....	40
(3) ギャンブル問題と喫煙の関連.....	41
(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連.....	42
(5) ギャンブル問題と小児期逆境体験との関連.....	43
(6) ギャンブル問題と子育ての負担感との関連.....	44
2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識および新型コロナの影響.....	46
(1) ギャンブル等依存症対策の認知度.....	46
(2) 依存症への考え方.....	47
(3) 新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル.....	48
第3章 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査.....	50
3.1 調査目的.....	50
3.2 調査方法.....	50
(1) 調査対象施設の抽出.....	50
(2) 調査対象.....	50
(3) 調査回答期間.....	50
(4) 調査票名と調査内容.....	50
(5) 配布・回答・回収方法.....	51
(6) 分析方法.....	51
3.3 回収結果.....	51
3.4 データクレンジング基準の概要.....	52
(1) 有効票の基準.....	52
(2) 回答ミスの取り扱い.....	52
3.5 有効票の概要.....	53
(1) A票 当事者回答：有効票の概要.....	53

(2) B票 家族回答：有効票の概要.....	55
3.6 【A票】当事者回答の結果.....	57
3.6.1 対象者の基本属性.....	57
(1) 年齢・性別（当事者）.....	57
(2) 婚姻状況・同居家族（当事者）.....	59
(3) 職業・年収（当事者）.....	60
3.6.2 相談支援や国の制度の利用状況・行政に求める支援.....	61
(1) 公的相談機関や自助グループを利用したきっかけ（当事者）.....	61
(2) 相談支援機関の利用状況（当事者）.....	61
(3) 経済的な支援制度の利用状況（当事者）.....	62
(4) 行政に求める支援（当事者）.....	62
3.6.3 公的相談機関および自助グループを利用する者のギャンブル問題.....	63
(1) 過去1年のギャンブル経験とギャンブルの種類.....	63
(2) 過去1年のギャンブルの頻度・インターネットを使ったギャンブル.....	64
(3) 過去1年ギャンブルに使ったお金.....	65
(4) ギャンブルに関連した借金.....	66
(5) ギャンブルをするようになった経緯.....	66
(6) ギャンブル障害のスクリーニングテスト.....	67
3.6.4 過去1年ギャンブルをしていない理由.....	68
3.6.5 ギャンブラーズ・アノニマスの利用状況.....	69
3.6.6 公的相談機関を利用する当事者における関連問題.....	70
(1) 抑うつ・不安との関連（公的 - 当事者）.....	70
(2) 希死念慮・自殺企図との関連（公的 - 当事者）.....	71
(3) 小児期逆境体験との関連（公的 - 当事者）.....	72
(4) 触法行為との関連（公的 - 当事者）.....	73
(5) 養育困難との関連（公的 - 当事者）.....	74
(6) クロスアディクション（公的 - 当事者）.....	75
3.6.7 自助グループ有志における関連問題.....	76
(1) 抑うつ・希死念慮・自殺企図との関連（自助G）.....	76
(2) 小児期逆境体験との関連（自助G）.....	77
(3) 触法行為との関連（自助G）.....	77
(4) 養育困難との関連（自助G）.....	78
(5) クロスアディクション（自助G）.....	79
3.7 【B票】家族回答の結果概要.....	80
3.7.1 対象者の基本属性.....	80
(1) 性別・年齢（家族回答）.....	80
(2) 依存の問題がある当事者との関係（家族回答）.....	81
(3) 婚姻状況・同居家族（家族回答）.....	81
(4) 職業・世帯年収（家族回答）.....	82
3.7.2 相談や経済的支援制度の利用状況・行政に求める支援（家族）.....	84

(1) 公的相談機関や自助グループ利用のきっかけ（家族回答）.....	84
(2) 依存問題の相談経験（家族回答）.....	84
(3) 当事者の経済的な支援制度の利用経験（家族回答）.....	85
(4) 依存問題を抱える家族が要望する支援策や行政に期待すること.....	86
3.7.3 公的相談機関および自助グループを利用する家族が抱えるギャンブル問題.....	88
(1) 当事者の問題となっているギャンブルの種類.....	88
(2) 当事者のギャンブル問題から受けた影響.....	89
(3) 当事者がギャンブルのためにした借金額.....	89
(4) 当事者のギャンブルのためにした借金を立て替えた金額.....	89
(5) 当事者のギャンブルの停止状況.....	90
(6) 家族向け自助グループや家族会の利用経験.....	90
3.7.4 公的相談機関を利用する家族と関連問題.....	92
(1) 養育困難との関連（公的 - 家族）.....	92
(2) 子への虐待との関連（公的 - 家族）.....	93
(3) 小児期逆境体験との関連（公的 - 家族）.....	93
(4) 抑うつ・不安との関連（公的 - 家族）.....	94
(5) 希死念慮・自殺企図との関連（公的 - 家族）.....	94
(6) 依存問題のある当事者の触法行為（公的 - 家族）.....	95
3.7.5 ギャンブル家族向け自助グループ有志における関連問題.....	96
(1) 養育困難との関連（自助 G- 家族）.....	96
(2) 子への虐待との関連（自助 G- 家族）.....	96
(3) 小児期逆境体験との関連（自助 G- 家族）.....	96
(4) 抑うつ・不安との関連（自助 G- 家族）.....	97
(5) 希死念慮・自殺企図との関連（自助 G- 家族）.....	97
(6) 当事者の触法行為（自助 G- 家族）.....	98
第4章 ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査.....	99
4.1 調査目的.....	99
4.2 調査方法.....	99
(1) 調査対象.....	99
(2) 調査回答期間.....	100
(3) 調査票名・調査項目.....	100
(4) 配布・回答・回収方法.....	100
4.3 有効票の概要.....	101
4.4 調査結果.....	102
(1) 回答者の基本属性.....	102
(2) ギャンブルの実施状況確認.....	104
(3) ギャンブル問題が関与する相談の対応経験・紹介先.....	108
(4) ギャンブル問題が関与する相談の割合.....	113
(5) ギャンブル問題が関与する相談の認識・課題.....	115

第5章 まとめと考察.....	117
5.1 全国住民調査のまとめ	117
(1) 国民のギャンブル行動.....	117
(2) ギャンブル問題	117
(3) ギャンブル等依存が疑われる者	117
(4) ギャンブル関連問題.....	117
(5) ギャンブル等依存症対策.....	118
(6) 依存症に対する考え方.....	118
(7) 新型コロナウイルス感染拡大の影響	118
5.2 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査のまとめ	118
(1) 相談機関を訪れた当事者回答のまとめ.....	118
(2) 自助グループ参加当事者回答のまとめ.....	119
(3) 当事者における関連問題のまとめ	119
(4) 家族回答のまとめ.....	120
5.3 ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査のまとめ	120
5.4 全体の考察.....	121
(1) ギャンブル等依存が疑われる者の割合について	121
(2) 住民調査におけるギャンブル関連問題について	123
(3) ギャンブル等依存症への考え方、インターネットによるギャンブルについて.....	124
(4) ギャンブル問題で公的相談機関や自助グループを利用する者の実態調査	124
(5) ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査	125
おわりに	125
巻末資料.....	127
企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿.....	127
(1) 企画委員会構成員（五十音順 敬称略）.....	127
(2) ワーキンググループ構成員（五十音順 敬称略）.....	127
(3) 関係省庁.....	127
(4) 事務局.....	127
(5) 報告書 執筆者一覧.....	128
(6) 調査票一覧.....	128
「娯楽と健康に関する調査」調査票	129
さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査 A 票 ご本人用.....	141
さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査 B 票 ご家族用	149
相談機関におけるギャンブル問題実態調査.....	154

第1章 調査全体の概要

1.1 調査の背景・目的

ギャンブル等依存症とは、ギャンブル等依存症対策基本法（平成30年法律第74号）（以下、「基本法」という。）第2条に定められている法律用語である。基本法では、ギャンブル等にのめりこむことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態と定義される。また、第3条では、「ギャンブル等依存症対策を講ずるに当たっては、ギャンブル等依存症が、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の問題に密接に関連することに鑑み、ギャンブル等依存症に関連して生ずるこれらの問題の根本的な解決に資するため、これらの問題に関する施策との有機的な連携が図られるよう、必要な配慮がなされるものとする」とされており、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の問題は、ギャンブルに関連した問題と考えられている。このようにギャンブル等依存症は、医学的に定義された疾病とは異なる概念であるが、ギャンブル等依存症に相当する医学上の疾病としては、国際的な疾病分類である世界保健機関による疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10版（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems：ICD-10）の「病的賭博」、米国精神医学会によるDSM-5（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）の「ギャンブル障害」があり、適切な治療や支援によって回復可能である。しかし、ギャンブル障害は、アルコール依存症や薬物依存症と同様に、治療や相談につながりにくいことが指摘されている。本人が治療を求めない理由として、自分で解決したいという希望および自分で解決できるという信念が最多と報告されており¹⁾、問題がありながらも、支援や治療を求めることが少ないため、ギャンブル等依存が疑われる者の割合や関連する問題への関与の程度など、ギャンブル等依存症の実態については、不明な点も少なくない。

基本法では、「政府は、三年ごとに、ギャンブル等依存症問題の実態を明らかにするため必要な調査を行うこととされ、平成31年4月に策定された「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」（以下、「基本計画」）において、当該調査の令和2年度中の実施が定められている。

本調査は、基本法等で定められた実態調査という位置付けであり、今後の我が国におけるギャンブル等依存症対策を講じていく上での基礎資料として、現時点におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態と、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等を含むギャンブル等依存症の関連問題の実態を明らかにすることを目的とする。

【用語の解説】

この報告書では、「ギャンブル」および「ギャンブル等依存症」という用語を下記の意味で用いる。

「ギャンブル」とは…金銭や品物などの財物を賭けて偶然性の要素が含まれる勝負を行い、その勝負の結果によって賭けた財物のやりとりをおこなう行為である。日本国内における競馬、競輪、競艇などの公営ギャンブルのほか、海外のギャンブル（カジノ、ブックメーカー等）や、違法ギャンブル（裏カジノ、賭け麻雀等）などが含まれる。パチンコ・パチスロも含む。

なお、本調査における具体的なギャンブルの種類は、あらかじめ調査票にリストとして提示した上で、ギャンブルに関連する質問を行った。下記に調査票より抜粋したギャンブルの種類の一覧を示す。この調査では、下の（ア）～（シ）の種目をギャンブルとした。

ア	パチンコ
イ	パチスロ
ウ	競馬
エ	競輪
オ	競艇
カ	オートレース
キ	宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）
ク	サッカーくじ
ケ	証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX
コ	インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）
サ	海外のカジノ
シ	その他のギャンブル

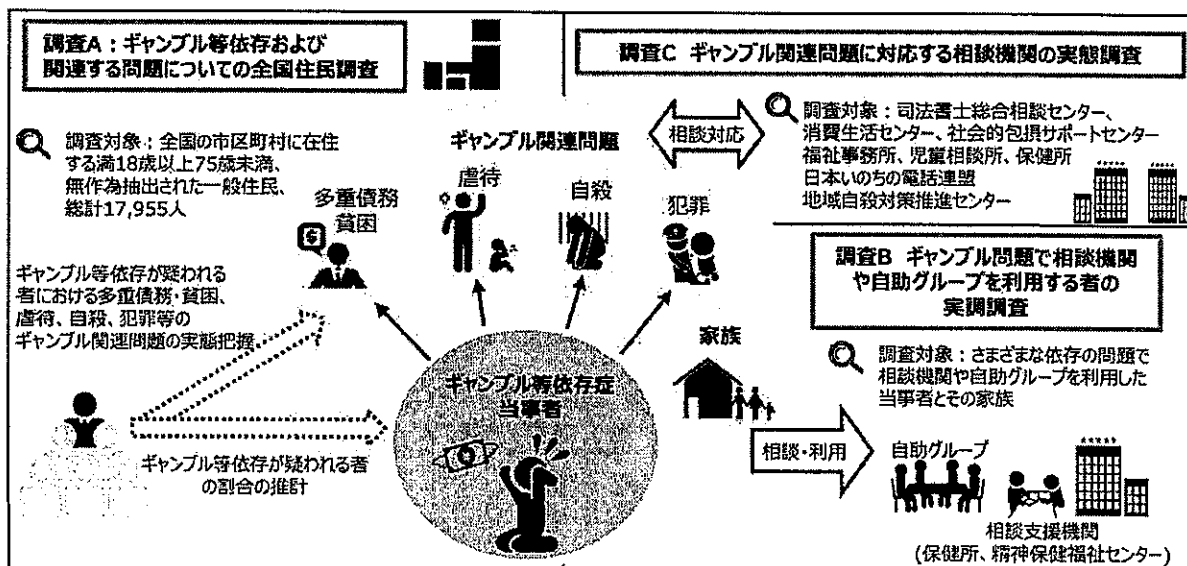
「ギャンブル等依存症」とは…基本法第2条において、ギャンブル等依存症とは、「ギャンブル等（法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為をいう。）にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。本報告書では、基本法第2条に定める「ギャンブル等依存症」と、医学的疾患概念である「病的賭博（ICD10）」、「ギャンブル障害（DSM-5）」を同義として扱うこととする。

1.2 調査の内容

(1) 本調査の全体像

本調査は、現時点における「ギャンブル等依存が疑われる者」の実態と、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等を含むギャンブル等依存症に関連する問題の実態を明らかにすることを目的として、3種類の調査を実施した。図表 1-1 に本調査の全体像を示す。

図表 1-1 本調査の全体像



第一の調査として、全国の一般住民を対象とした「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」（以下、調査(A) という。）を実施した。第二の調査として、相談支援機関・関係団体への来訪者を対象にした「ギャンブルを含む依存の問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」（以下、調査(B) という。）を実施した。第三の調査として、相談支援機関・関係団体を対象とした「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」（以下、調査(C) という。）を実施した。次項より、それぞれの調査の内容について概説する。

(2) 調査(A)「ギャンブル等依存および関連する問題についての全国住民調査」概要

全国の市区町村に居住する満18歳以上75歳未満の日本国籍を有する者17,955人を対象として、自記式調査を実施し、ギャンブル経験の有無や種類、頻度、掛け金額、ギャンブル障害のスクリーニングテストによる「ギャンブル等依存が疑われる者の割合」の推計、ギャンブル問題に関連して生じる問題（ギャンブル関連問題）、重要な他者のギャンブル問題から受けた影響、コロナ禍でのインターネットを利用したギャンブルなどについて調査を実施した。

(3) 調査(B)「ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査」概要

ギャンブル等依存症をはじめとし、さまざまな依存・嗜癖（薬物、アルコール依存、ネット・ゲーム）の問題のために、相談機関や自助グループを利用する者（当事者とその家族）を対象に、自記式調査を実施し、相談機関や自助グループを利用する者（当事者とその家族）の特徴やギャンブル関連問題

(多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪)の実態を調査した。なお、調査内容は「当事者用」と「家族用」で内容を分けて調査を実施した。

「当事者用」のアンケートにおいては、依存の問題の種類、ギャンブル関連問題の有無、ギャンブル経験の有無や種類、頻度、掛け金額、自助グループの利用などについて調査を実施した。

「家族用」のアンケートにおいては、当事者の依存の問題の種類、当事者のギャンブル関連問題の有無、当事者のギャンブル経験の有無や種類・頻度、家族に生じた問題、自助グループの利用などについて調査を実施した。

(4) 調査(C)「ギャンブル関連問題に対応する相談機関の実態調査」概要

「多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪」といったギャンブルに関連する問題の相談支援を担う機関（計10組織）を調査対象組織として、ギャンブル関連問題が背景に関与している相談の対応経験、また、そのような相談に対応する際の課題等について、調査を実施した。

1.3 企画委員会・ワーキンググループの設置

(1) 委員会の設置目的

企画委員会は、当事業の大方針の決定にあたり、調査項目の要否・有意性、調査の方法、調査結果の分析手法、調査結果の解釈等についての検討および助言を事務局に対して実施することを設置目的とする。

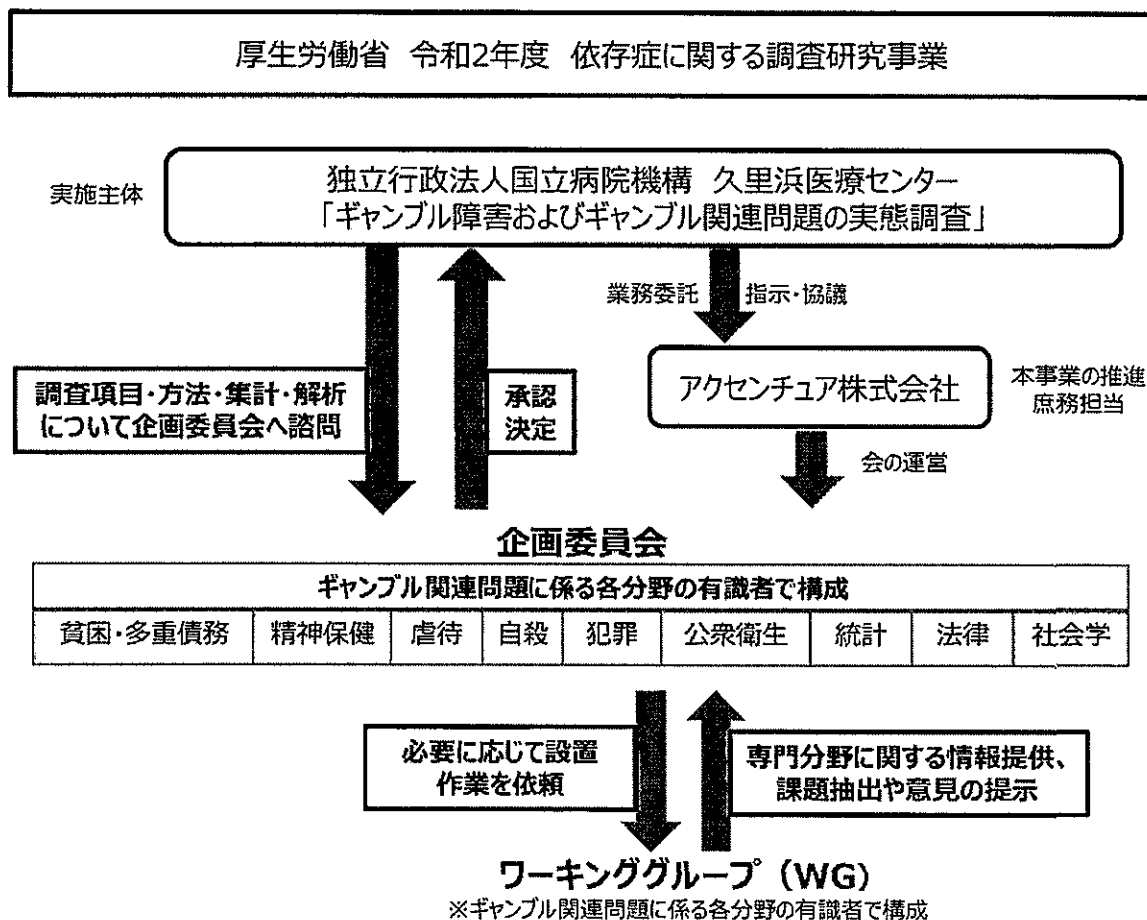
(2) 委員会の役割・位置づけ

企画委員会の役割・位置づけは、事務局からの諮問に基づき、大方針の決定、ワーキンググループにおける議論の確認と承認を行うことである。

(3) 企画委員会委員運営体制

ギャンブル等依存症問題に関する専門家、疫学調査、統計に関する専門家、関連問題に関する専門家で企画委員会を構成した¹⁾。

図表 1-2 企画委員会・ワーキンググループ・事務局の関係性



¹⁾ 構成員は、巻末資料「企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿」を参照

(4) 企画委員会開催内容

企画委員会は第1回から第7回まで開催された。各回の開催内容は図表1-3の通りである。

図表1-3 各回企画委員会の実施内容概要

会議名	開催日	議事内容
第1回 企画委員会	令和2年7月31日	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明および構成員紹介 座長の選出 企画委員会・ワーキンググループ（WG）の位置づけ、進め方 調査（A）調査項目全体構成検討、調査票素案への意見、コメント 調査（B）調査手法
第2回 企画委員会	令和2年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ギャンブル問題を考える会からの本調査に関する意見の紹介 第1回企画委員会 宿題事項報告（調査（A）調査項目案の修正・追加箇所の確認） 調査実施に必要な諸手続きの確認（倫理審査等） 調査（B）の調査手法、調査対象、調査内容・ボリューム 調査（C）の調査手法、調査対象、調査内容・ボリューム
第3回 企画委員会	令和2年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 調査（A）状況報告 調査（B）の調査手法、調査対象についての確認 調査（B）の調査項目・ボリュームについてのコメント 調査（C）の調査手法、調査対象についての確認 調査（C）の調査項目・ボリュームについてのコメント
第4回 企画委員会	令和3年2月2日	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯の振り返りと今後のスケジュール 調査（B）回収数（速報値）の報告 調査（C）回収数（速報値）の報告 調査（A）データクレンジング基準等の確認 調査（A）集計結果報告・結果協議
第5回 企画委員会	令和3年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> 調査（B）データクレンジング基準・分析計画案等の確認 調査（B）速報値確認・審議事項討議 調査（C）分析計画案の確認 調査（C）速報値確認・審議事項討議 調査（A）審議事項討議
第6回 企画委員会	令和3年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> 調査（A）：SOGSによるギャンブル等依存が疑われる者の推計に関して追加検討事項 調査（A）：報告書骨子案の確認と検討 今後の進め方
第7回 企画委員会	令和3年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> 調査（B）集計結果概要の報告・および意見 今回調査の課題・次回以降の調査に向けて報告・および意見 今後の報告書作成に向けた進め方

(5) ワーキンググループの目的

ワーキンググループは、ギャンブル等依存症とその関連問題（「虐待」「貧困・多重債務」「自殺」「犯罪」）との関連性、各組織間の連携実態把握に向けて、調査項目の要否・有意性、調査の方法、調査結果の分析手法、調査結果の解釈の検討および助言を事務局に対して実施することを目的とする。

(6) ワーキンググループの役割・位置づけ

ワーキンググループの役割・位置づけは、企画委員会からの依頼を受け、「虐待」「貧困・多重債務」「自殺」「犯罪」関連問題におけるギャンブル等依存症との関連性、各組織間の連携実態把握等のための調査方法・対象の適正性の議論を行うことである。

(7) ワーキンググループ運営体制

ワーキンググループ委員はギャンブル等依存症問題に関する専門家、公衆衛生、統計、依存症、貧困・多重債務、虐待、自殺、犯罪に関する専門家について、企画委員会委員の推薦を基に、事務局で審議の上決定を行った²⁾。

(8) ワーキンググループ開催内容

ワーキンググループは第1回から第6回まで開催された。各回の開催内容は下記の通りである。

また、調査結果の分析にあたり、分析計画、データクレンジング基準、集計方法等について意見を求めた。

図表 1-4 各回ワーキングの実施内容概要

会議名	開催日	議事内容
第1回 ワーキング グループ	令和2年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・調査概要説明および構成員紹介 ・座長の選出 ・企画委員会・ワーキンググループの位置づけ、進め方 ・貧困・多重債務とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法、調査項目案への意見、コメント ・調査(C) 調査手法、調査項目案への意見、コメント
第2回 ワーキング グループ	令和2年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法、調査項目案への意見、コメント ・調査(C) 調査手法、調査項目案への意見、コメント
第3回 ワーキング グループ	令和2年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法、調査項目案への意見、コメント ・調査(C) 調査手法、調査項目案への意見、コメント
第4回 ワーキング グループ	令和2年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待とギャンブル等依存症の関係に関して概況説明 ・調査(B) 調査手法、調査項目案への意見、コメント ・調査(C) 調査手法、調査項目案への意見、コメント
第5・6回 ワーキング グループ ³⁾	令和2年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・調査(B) 調査手法の確認 ・調査(B) 調査票への意見・確認 ・調査(C) 調査手法の確認 ・調査(C) 調査項目案への意見・確認
ワーキング グループ (書面開催)	令和2年12月29日～ 令和3年1月11日	・調査(A) 分析計画案への意見、コメント
	令和3年1月14日～ 令和3年1月27日	・調査(A) データクレンジング基準への意見、コメント
	令和3年2月24日～ 令和3年3月6日	・調査(A) 年齢調整を実施する分析項目への意見、コメント
	令和3年3月15日～ 令和3年3月17日	・調査(B) の集計方法(集計区分の方針)への意見、コメント

²⁾ 構成員は、巻末資料「企画委員会・ワーキンググループ構成員名簿」を参照

³⁾ 第5回と第6回のワーキンググループは同一日に開催した。

第2章 ギャンブル等依存および関連する問題についての 全国住民調査（調査A）

2.1 調査目的

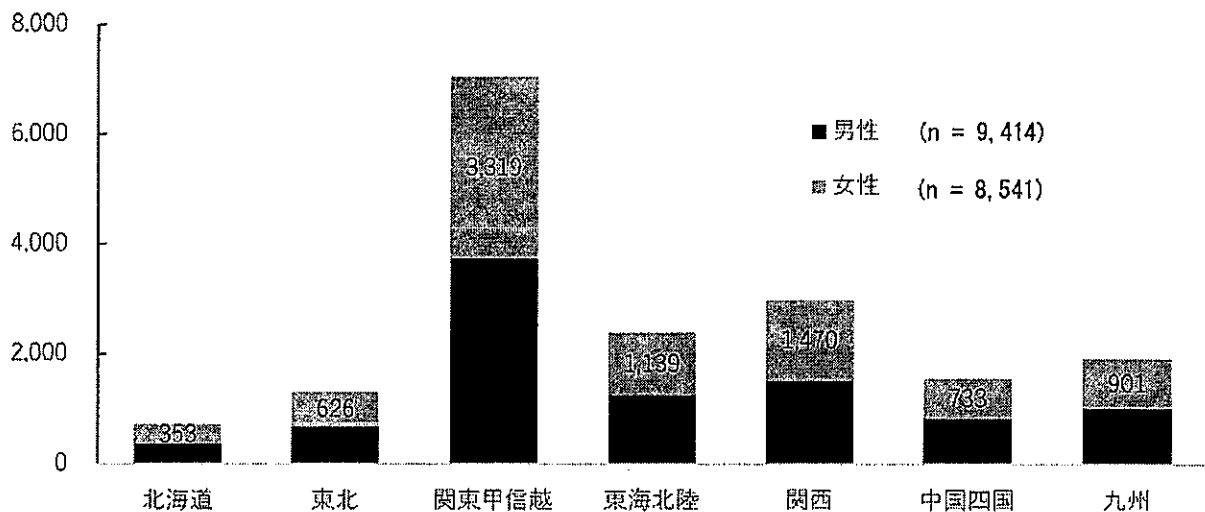
一般住民における「ギャンブルの経験」や「ギャンブル行動」の実態、および「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」を明らかにする。さらに、「ギャンブル等依存が疑われる者」における、ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）の実態を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2.2 調査方法

（1）調査対象

調査対象者は、全国の市区町村 300 地点に在住する満 18 歳以上 75 歳未満の日本国籍を有する者（日本国籍を有する海外出身者を含む）から、層化二段無作為抽出法を用いて 17,955 人を抽出した。抽出されたサンプルの地域別対象者数および性別の内訳を図表 2-1 に示す。

図表 2-1 地域別調査対象者数および性別の内訳



（2）調査票の配布および回収時期

令和2年10月22日～令和2年12月16日

（3）調査内容

調査票名：「娯楽と健康に関する調査」

調査項目

①基本属性・背景情報

性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、学歴、年収等

②ギャンブル行動

- ・生涯・過去1年間のギャンブル経験の有無
- ・生涯・過去1年間に経験したギャンブルの種類、頻度、ギャンブルに使う金額等

③ギャンブル関連問題

- ・借金に関する質問
- ・子育ての負担感、小児期逆境体験
- ・希死念慮・自殺企図の有無
- ・抑うつ・不安のスクリーニングテスト（Kessler6: K6）

④ギャンブル障害のスクリーニングテスト

- ・SOGS, PGSI, NODS-CLIP

<本研究で用いたギャンブル障害のスクリーニングテストの概要>

◆ SOGS (South Oaks Gambling Screen)

アメリカのサウスオックス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテストである。原版の質問数は16問だが、点数にはならない質問が4問含まれている。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されており、わが国では、2008年、2013年、2017年の全国調査で用いられた。得点範囲は0点～20点で、本報告書では、SOGS合計得点が5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ PGSI (The Problem Gambling Severity Index)

9項目からなる自記式のスクリーニングテストで、地域住民を対象とした疫学調査で用いることを目的に開発された。得点範囲は0点～27点で、本研究では、PGSIで8点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

◆ NODS-CLIP ※ NODS (The NORC DSM- IV Screen for Gambling Problems) の簡易版

「コントロールの喪失」、「うそ」、「没頭」に関する3項目で構成され、DSM-IVの診断基準を基に開発されたギャンブル障害のスクリーニングテストであるNODSの短縮版である。いずれか1つ以上の項目に該当した場合に、ギャンブル障害のためのより詳しいスクリーニングテストを実施することが推奨される。※NODS-CLIPは、次回以降の実態調査に向けた予備調査として実施された。そのため、本報告書における結果掲載は割愛した。

【調査票における質問19、20、21が該当】

⑤クロスアクション

- ・ギャンブル問題と喫煙・アルコール問題（AUDIT-C）との関連

⑥その他

- ・ギャンブル依存症対策の認知度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴うギャンブル行動の変化
- ・依存症などの疾患に対する意見
- ・ギャンブル問題に関する相談先
- ・重要な他者のギャンブル問題の有無と、重要な他者のギャンブル問題から受けた影響 等

（4）調査票配布と回収方法、謝礼

調査票は、対象者の住民基本台帳に登録のある居住地宛に、回答案内（Web 回答の案内を含む）と調査票、返送用封筒を送付した。

なお、回答方法は、下記いずれかを調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ① 紙の調査票に回答して返送する形式（郵送回答）
- ② インターネット経由で Web 回答する形式（Web 回答）

回答者への謝礼として、QUO カードまたは、QUO カード Pay500 円分を進呈した。

2.3 回収率および無効回答の定義

総回収数は 8,469 票（郵送回答：5,237 票、Web 回答：3,232 票）、回収率は 47.2%であった。有効票は 8,223 票（郵送回答：5,120 票、Web 回答：3,103 票）、有効回答率は 45.8%であった。以下に該当した 246 票は無効票とした。

- ① 住民基本台帳の性別と、調査対象者が実際に回答した性別が異なるもの
- ② 年齢が、調査対象年齢外である 18 歳未満と回答しているもの
- ③ 郵送回答と Web 回答の両方に重複して回答しているもののうち、回答受領時期が遅かったもの

（1）回答必須項目の設定

性別・年齢を回答必須項目とし、これらの項目に「無回答」、「答えたくない」と回答した場合は、住民基本台帳から抽出した当該回答者の情報を採用した。

（2）回答ミスの取り扱い

ア 年齢・性別の回答ミス

回答された性別が住民基本台帳の情報と異なるものは、無効回答票とした。

また、回答した年齢が住民基本台帳の情報と異なる場合、住民基本台帳の情報と調査回答開始日から算出した年齢を採用した。ただし、回答した年齢が、調査対象年齢を下回る（18 歳未満）の場合は無効回答票とした。

イ 単一選択設問に複数選択している場合

単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として集計から除外した。ただし、下記の場合は、有効回答として集計対象に含めた。

- ・例 1：「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・例 2：問 4 で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

ウ 数値を答える質問における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明が付かない数値や、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし、集計から除外した。

エ 設問間の矛盾

関連性のある複数の設問間で矛盾する内容の回答をしている場合は、質問ごとに、下記のいずれかの処理を実施した。

- ・不適切回答として集計の対象外とする。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計対象とする。

2.4 年齢調整方法

「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」にあたり、本調査で得られた SOGS 得点および PGSI 得点の分布について、年齢階級ごとの回答者数の偏りを人口で補正し、「年齢調整後の割合」を算出した。

年齢調整方法は、20～74歳の回答者については、令和元年10月1日現在人口⁴⁾を基準として、性別・年齢階級別（5歳区分）、直接法にて年齢調整を実施した。また、18～19歳の回答者は、同様の令和元年10月1日現在人口を基準として、18～19歳を1区分、性別、直接法にて年齢調整を実施した。

2.5 分析方法

一部の質問結果の解析には、男女差および、SOGS 得点による「ギャンブル等依存が疑われる者」とそうでない者における傾向の違いを検証するために、 χ^2 検定を用いた。

⁴⁾ 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2019年版

2.6 調査結果

以下、「娯楽と健康に関する調査」調査票の設問ごとに結果の概要を示す。

結果の見方の留意点：質問によって集計対象の総サンプル数が有効票（8,223票）と異なる場合がある。その際は図表の下に集計したサンプル数や除外理由を示した。また、質問には、調査対象者全員に尋ねる質問と、選んだ選択肢によって1部の該当者のみ答える質問がある。

2.6.1 対象者の基本属性・背景情報

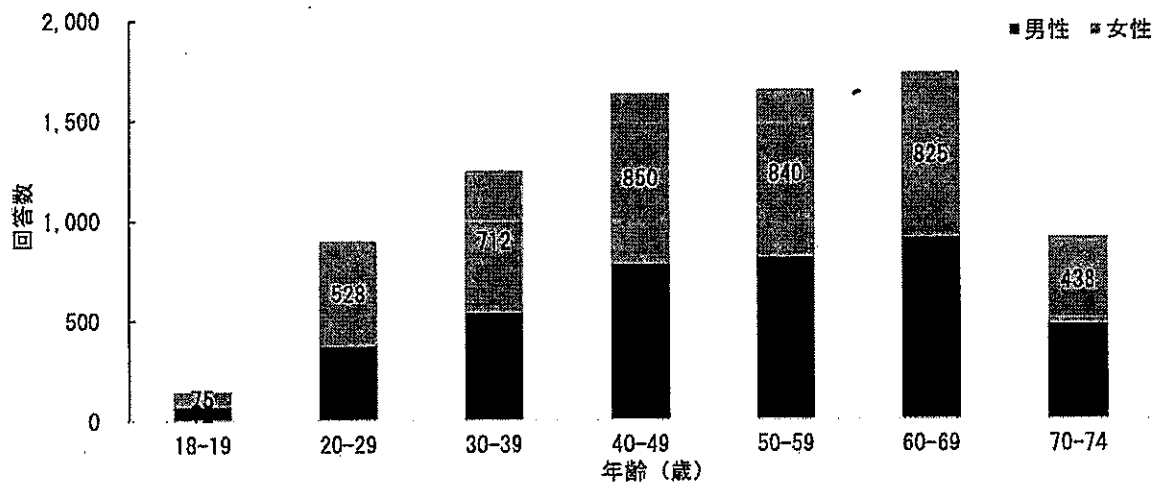
（1）回答者の性別⁵⁾・年齢

【問1】あなたの性別を教えてください。（単一選択）

【問2】あなたの年齢を教えてください。（単一選択）

男性が3,955名（48.1%）、女性が4,268名（51.9%）で、男性の平均年齢は50.9歳（標準偏差15.2歳）、女性の平均年齢は48.6歳（標準偏差15.4歳）であった。総務省統計局人口推計令和元年10月1日人口⁶⁾より算出した性別人口比、年齢階級別人口比と同等の分布が得られた。（図表2-2）

図表2-2 回答者の性・年齢



⁵⁾ 【問1】で「答えたくない」と回答した者は、住民基本台帳上の情報を採用した。

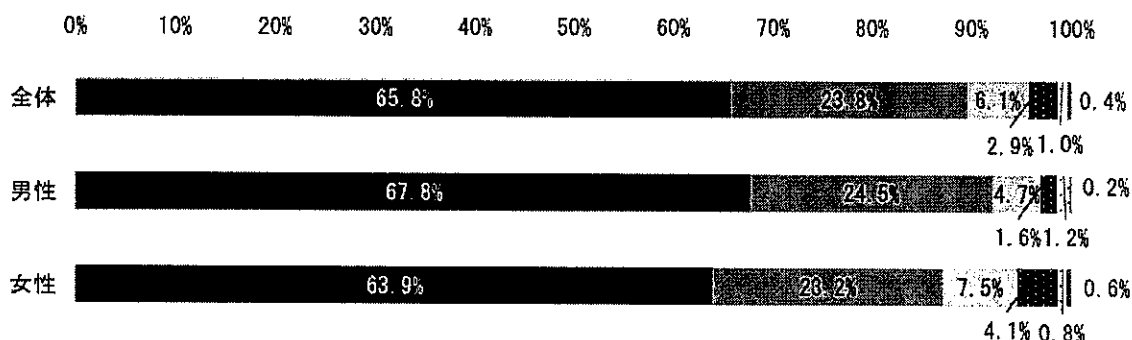
⁶⁾ 総務省統計局 人口推計 各年10月1日現在人口 2019年版

（2）婚姻状況

【問3】【婚姻歴】あなたは現在、結婚されていますか。
あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

全体の65.8%が「結婚している」で最も多く、「未婚」は23.8%、「離婚した」は6.1%であった。
（図表2-3）

図表2-3 全体・性別の婚姻歴



■結婚している ■未婚（結婚したことがない） ■離婚した ■死別した ■内縁関係（配偶者のような関係） ■別居中

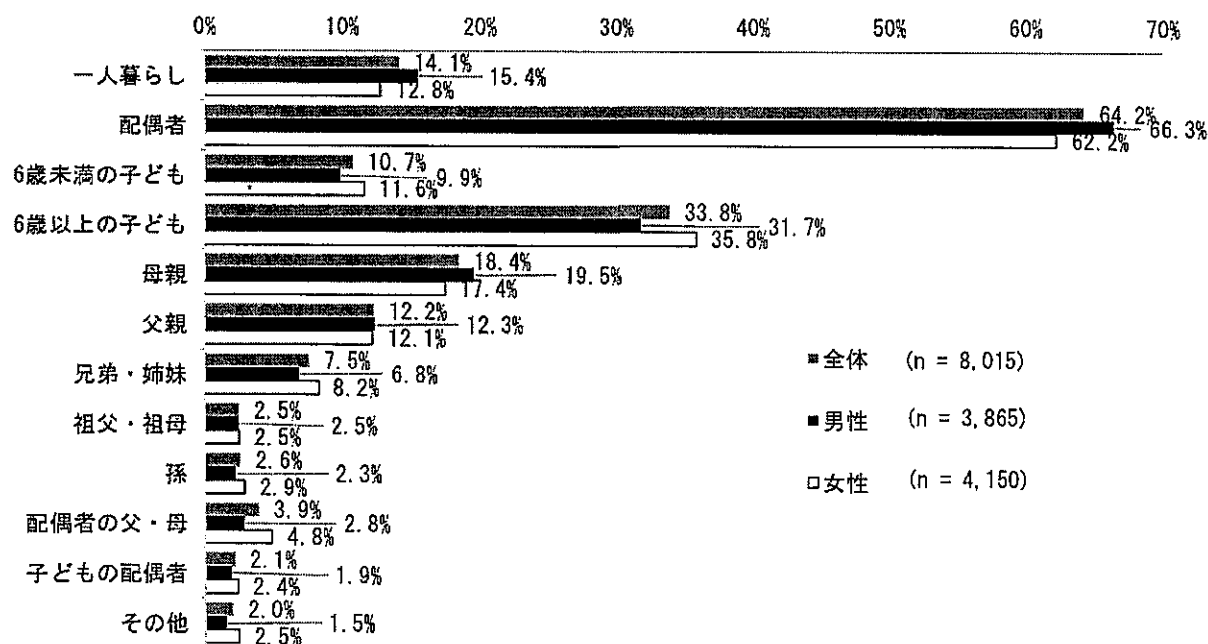
※問3 集計から除外：設問内矛盾（n=7）（2つ以上選択），無回答（n=20），答えたくない（n=139）

（3）同居者の種類と同居人数

【問4】【同居者】あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

配偶者（64.2%）や6歳以上の子ども（33.8%）と同居している者が多く、一人暮らしは全体の14.1%であった。（図表2-4）

図表2-4 全体・性別の同居者



※問4 集計から除外：設問内矛盾（n=1）（「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択），無回答（n=39），答えたくない（n=168）

【問5】【同居人数】現在のお住まいと一緒に暮らしている方は、あなたご自身を含めて何人いますか。

同居人数について、1人（14.2%）、2人（29.3%）、3人（24.7%）、4人（19.7%）であった。

（図表2-5）

参考値：直近の国勢調査による一般世帯の世帯人員の割合⁷⁾は、1人（34.5%）、2人（27.9%）、3人（17.6%）、4人（13.3%）、5人（4.5%）、6人（1.5%）、7人以上（0.7%）であった。

図表2-5 同居人数

同居人数（本人含む）	男性	女性	全体
1人	614 (15.7%)	536 (12.7%)	1,150 (14.2%)
2人	1,138 (29.0%)	1,242 (29.5%)	2,380 (29.3%)
3人	955 (24.4%)	1,056 (25.1%)	2,011 (24.7%)
4人	750 (19.1%)	851 (20.2%)	1,601 (19.7%)
5人	275 (7.0%)	334 (7.9%)	609 (7.5%)
6人	119 (3.0%)	114 (2.7%)	233 (2.9%)
7人	43 (1.1%)	52 (1.2%)	95 (1.2%)
8人	16 (0.4%)	9 (0.2%)	25 (0.3%)
9人	5 (0.1%)	10 (0.2%)	15 (0.2%)
10人以上	5 (0.1%)	3 (0.1%)	8 (0.1%)
計	3,920 (100.0%)	4,207 (100.0%)	8,127 (100.0%)

※問5集計から除外：設問間矛盾（n=3）（問4で1人暮らしと回答しているのに問5で2人以上を回答）、設問内矛盾（n=1）（0人と回答）、無回答（n=92）

（4）職業**【問6】【職業】現在のあなたの職業を教えてください。（単一選択）**

男性の就業者では「正社員・正職員」51.8%、「自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）」14.4%、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」12.9%の順で回答した割合が高かった。非就業者では「無職（退職者、今後就業予定のない者）」が12.8%であった。女性の就業者では、「契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト」29.8%、「正社員・正職員」28.6%であった。「専業主婦」は21.0%であった。（図表2-6）

図表2-6 職業

職業	男性	女性	全体
正社員・正職員	2,020 (51.8%)	1,197 (28.6%)	3,217 (39.8%)
契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト	502 (12.9%)	1,247 (29.8%)	1,749 (21.6%)
専業主婦・専業主夫	7 (0.2%)	882 (21.0%)	889 (11.0%)
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	562 (14.4%)	303 (7.2%)	865 (10.7%)
無職（退職者、今後就業予定のない者）	500 (12.8%)	248 (5.9%)	748 (9.2%)
学生	138 (3.5%)	152 (3.6%)	290 (3.6%)
無職（求職中、失業中、進路未定を含む）	123 (3.2%)	111 (2.6%)	234 (2.9%)
その他	47 (1.2%)	50 (1.2%)	97 (1.2%)
計	3,899 (100.0%)	4,190 (100.0%)	8,089 (100.0%)

※問6集計から除外：設問内矛盾（n=7）（2つ以上選択）、無回答（n=66）、答えたくない（n=61）

⁷⁾ 「平成27年国勢調査結果」（総務省統計局）

（５）仕事の種類

【問 8】【仕事の種類】あなたはどのような種類の仕事をしていますか。（単一選択）

就業者における職種は、男性は「専門・技術職」23.1%、「生産現場・技能職」19.9%、「管理職」13.1%の順で割合が高かった。女性では「事務職」27.5%、「専門・技術職」26.4%、「サービス職」14.7%の順で割合が高かった。（図表 2-7）

図表 2-7 仕事の種類

仕事の種類	男性	女性	全体
専門・技術職	707 (23.1%)	722 (26.4%)	1,429 (24.7%)
事務職	344 (11.2%)	750 (27.5%)	1,094 (18.9%)
生産現場・技能職	609 (19.9%)	143 (5.2%)	752 (13.0%)
販売職	299 (9.8%)	347 (12.7%)	646 (11.1%)
サービス職	201 (6.6%)	402 (14.7%)	603 (10.4%)
管理職	400 (13.1%)	56 (2.1%)	456 (7.9%)
運輸・保安職	258 (8.4%)	27 (1.0%)	285 (4.9%)
農・林・漁業	71 (2.3%)	48 (1.8%)	119 (2.1%)
その他	176 (5.7%)	234 (8.6%)	410 (7.1%)
計	3,065 (100.0%)	2,729 (100.0%)	5,794 (100.0%)

※問 8 集計から除外：設問間矛盾（n=642）（問 6 で就業者と回答していないのに問 8 で職種を選択している），設問内矛盾（n=6）（2 つ以上選択），無回答（n=1,682），答えたくない（n=99）

（６）学歴

【問 7】【最終学歴】あなたの最終学歴を教えてください。（単一選択）

男性では「大学卒業」36.6%，女性では「高校・高専卒業」35.2%と回答した割合が高かった。（図表 2-8）

図表 2-8 最終学歴

最終学歴	男性	女性	全体
高校・高専卒業	1,296 (33.2%)	1,480 (35.2%)	2,776 (34.2%)
大学卒業	1,430 (36.6%)	936 (22.2%)	2,366 (29.2%)
短大・専門学校卒業	412 (10.6%)	1,232 (29.3%)	1,644 (20.3%)
中学校卒業	225 (5.8%)	184 (4.4%)	409 (5.0%)
高校・高専中退	167 (4.3%)	142 (3.4%)	309 (3.8%)
大学院修了	200 (5.1%)	74 (1.8%)	274 (3.4%)
大学中退	106 (2.7%)	40 (1.0%)	146 (1.8%)
短大・専門学校中退	24 (0.6%)	91 (2.2%)	115 (1.4%)
大学院中退	13 (0.3%)	8 (0.2%)	21 (0.3%)
その他	31 (0.8%)	20 (0.5%)	51 (0.6%)
計	3,904 (100.0%)	4,207 (100.0%)	8,111 (100.0%)

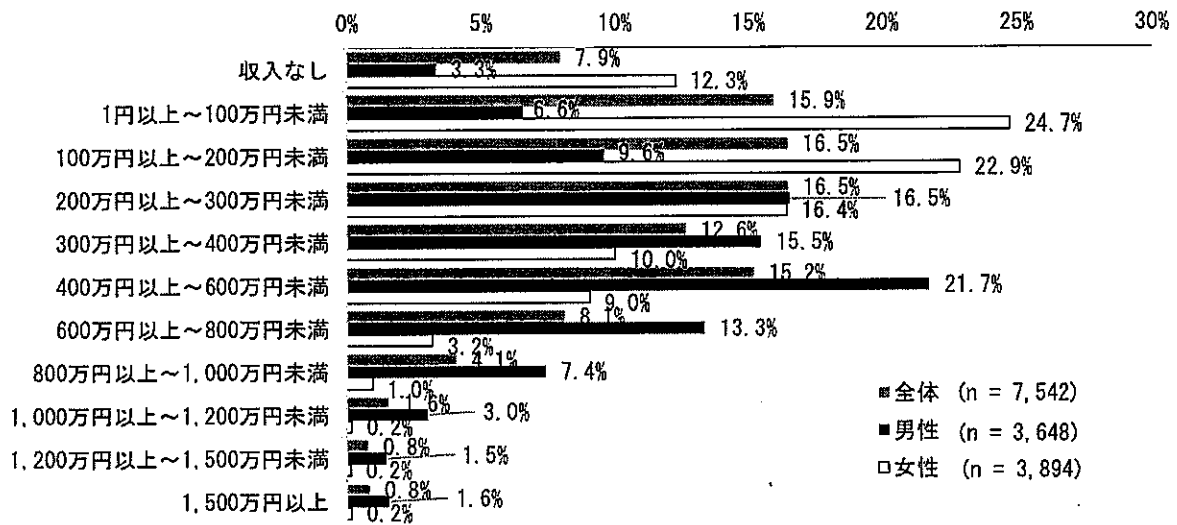
※問 7 集計から除外：設問内矛盾（n=8）（2 つ以上選択），無回答（n=51），答えたくない（n=53）

（7）年収

【問 11】【税込み年収】 あなたの税込み年収は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ全体額でお答えください。（単一選択）

男性では「400万円以上～600万円未満」21.7%，女性では「1円以上～100万円未満」24.7%と回答した割合が高かった。（図表 2-9）

図表 2-9 年収



※問 11 集計から除外：設問内矛盾 (n=3) (2 つ以上選択), 無回答 (n=249), 答えたくない (n=197), わからない (n=232)

2.6.2 ギャンブル行動

（1）ギャンブルの経験（生涯、過去1年）

【問12】あなたはこれまでにギャンブルをしたことがありますか。（複数選択）

ギャンブルを生涯において経験したことがあると回答した割合（生涯ギャンブル経験あり）は、全体の74.5%（男性の84.1%，女性の65.7%）であった。過去1年間にギャンブルを経験した割合は、全体の33.6%（男性の45.0%，女性の22.9%）であった（図表2-10・図表2-11）。年代別でみると、生涯ギャンブル経験率が高いのは、40歳-49歳（84.9%）、50-59歳（83.1%）であった。さらに、年代別の過去1年でのギャンブル経験率が最も高かったのは、50-59歳（40.7%）であった（図表2-12）。

図表2-10 ギャンブル経験の有無（生涯・過去1年）

生涯ギャンブル経験なし	生涯ギャンブル経験あり	
2,093 人 (25.5%)	6,130 人 (74.5%)	
	過去1年ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験なし
	2,759 人 (33.6%)	3,371 人 (41.0%)

※【問12】に無回答の者（n=109）は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※（%）はn=8,223における割合

図表2-11 男女別ギャンブル経験率（生涯、過去1年）

	生涯ギャンブル経験あり	過去1年のギャンブル経験あり
男性（n=3,955）	3,328 (84.1%)	1,781 (45.0%)
女性（n=4,268）	2,802 (65.7%)	978 (22.9%)
全体（n=8,223）	6,130 (74.5%)	2,759 (33.6%)

※【問12】に無回答の者（n=109）は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※（%）はn=8,223における割合

図表2-12 年代別ギャンブル経験率（生涯、過去1年）

年齢区分（n=有効票数）	生涯ギャンブル経験あり	過去1年ギャンブル経験あり
18-19歳（n=147）	22 (15.0%)	10 (6.8%)
20-29歳（n=897）	452 (50.4%)	216 (24.1%)
30-39歳（n=1,252）	939 (75.0%)	433 (34.6%)
40-49歳（n=1,632）	1,386 (84.9%)	568 (34.8%)
50-59歳（n=1,649）	1,370 (83.1%)	671 (40.7%)
60-69歳（n=1,734）	1,342 (77.4%)	611 (35.2%)
70-74歳（n=912）	619 (67.9%)	250 (27.4%)
全体（n=8,223）	6,130 (74.5%)	2,759 (33.6%)

※【問12】に無回答の者（n=109）は、「生涯ギャンブル経験なし」として扱った。

※（%）は、各年代の有効票に占める割合

(2) 経験したギャンブルの種類（生涯、過去1年）

【問13】 【問12】で○をつけたギャンブルについて、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。（各項目単一選択）

【経験したギャンブルの種類（生涯、過去1年）と過去1年間の実施頻度】

生涯で経験したギャンブルの種類は、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」63.7%、「パチンコ」50.3%、「競馬」29.4%、「パチスロ」22.7%の順で割合が高かった。

（%は有効票全体 n=8,114 に占める割合）

各種ギャンブルのうち、「過去1年間に経験した」と回答した人数が多いのは「宝くじ（ロト・ナンバーズ等を含む）」（n=1,887）、「パチンコ」（n=669）、「パチスロ」（n=433）であった。

なお、各種ギャンブルについて、生涯に1度以上経験があると回答した者が、過去1年間に当該ギャンブルを実施している割合を算出したところ、「インターネットを使ったギャンブル（競馬、競輪等を除く）」49.2%、「証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX」41.8%、宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）36.5%の順で高かった。

また、ギャンブルの種類ごとに、過去1年間ににおける実施頻度を尋ねたところ、週1回以上実施したと回答した人数が多いのは、「宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）」（n=241）、「パチンコ」（n=171）、「パチスロ」（n=104）、「競馬」（n=101）であった。（図表 2-13）

図表 2-13 経験したギャンブルの種類（生涯と過去1年間）と過去1年間の頻度

ギャンブルの種類	各種ギャンブルの生涯における経験と 過去1年間の経験の有無 【単位：人数（％）】				過去1年間にギャンブル経験がある者におけるギャンブル実施頻度 【単位：人数】	
	生涯経験あり (全体 (8,114 名) に占める人数と 割合)	過去1年間の経験 (生涯経験ある者における割合)			週1回未満	週1回以上
		経験あり	経験なし	無回答		
パチンコ	4,080(50.3%)	669(16.4%)	3,296(80.8%)	115 (2.8%)	498	171
パチスロ	1,845(22.7%)	433(23.5%)	1,365(74.0%)	47 (2.5%)	329	104
競馬	2,385(29.4%)	406(17.0%)	1,896(79.5%)	83 (3.5%)	305	101
競輪	444 (5.5%)	40 (9.0%)	374(84.2%)	30 (6.8%)	35	5
競艇	632 (7.8%)	91(14.4%)	513(81.2%)	28 (4.4%)	76	15
オートレース	192 (2.4%)	18 (9.4%)	156(81.3%)	18 (9.4%)	17	1
宝くじ (ロト・ナンバーズ等も含む)	5,168(63.7%)	1,887(36.5%)	3,098(59.9%)	183 (3.5%)	1,646	241
サッカーくじ	805 (9.9%)	270(33.5%)	517(64.2%)	18 (2.2%)	210	60
証券の信用取引、先物取引市場 への投資、FX	661 (8.1%)	276(41.8%)	351(53.1%)	34 (5.1%)	194	82
インターネットを使ったギャンブル (競馬、競輪等を除く)	189 (2.3%)	93(49.2%)	83(43.9%)	13 (6.9%)	59	34
海外のカジノ	588 (7.2%)	20 (3.4%)	554(94.2%)	14 (2.4%)	18	2
その他のギャンブル	60 (0.7%)	17(28.3%)	34(56.7%)	9(15.0%)	14	3
上記のいずれもしたことはない	1,984(24.5%)					

※集計から除外：問12 無回答、問13 の設問内矛盾回答・無回答 (n=109)

（3）公営競技：主な券の購入方法

【問 14】【問 12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。
主にどこで券を購入しますか。（競技ごとに単一選択）

【問 13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去 1 年間に「週 1 回未満」または「週 1 回以上」と回答した者を対象に集計した。

競馬では、主な券の購入場所として「オンライン」が最も多く（60.7%）、「ギャンブル場 / 場外とオンラインの両方」と合わせると、75.2%がインターネット購入を利用していた。

競輪では、「ギャンブル場 / 場外売り場」で券を購入する者が最も多く（52.8%）、「オンライン」と「ギャンブル場 / 場外とオンラインの両方」を合わせると、47.2%がインターネット購入を利用していた。

競艇では、「ギャンブル場 / 場外売り場」で券を購入する者が最も多く（63.5%）、「オンライン」と「ギャンブル場 / 場外とオンラインの両方」を合わせると、36.5%がインターネット購入を利用していた。

オートレースでは、「オンライン」が最も多く（60.0%）、「ギャンブル場 / 場外とオンラインの両方」を合わせると、80.0%がインターネット購入を利用していた。（図表 2-14）

図表 2-14 公営競技の主な券の購入方法

	ギャンブル場 / 場外売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場 / 場外と オンラインの両方	合計
競馬	99 (24.8%)	242 (60.7%)	58 (14.5%)	399
競輪	19 (52.8%)	12 (33.3%)	5 (13.9%)	36
競艇	54 (63.5%)	22 (25.9%)	9 (10.6%)	85
オートレース	2 (20.0%)	6 (60.0%)	2 (20.0%)	10

※コロナ感染拡大が公営競技の券の購入場所に及ぼす影響を考慮し、【問 14】は生涯における券の購入場所を尋ねる質問であったが、図表 2-14 では、過去 1 年間に当該公営競技を経験した者に限定して集計。

※問 14 に無回答は集計から除外：競馬（n=7）、競輪（n=4）、競艇（n=6）、オートレース（n=8）

（４）ギャンブルに費やすお金

【過去１年間で最もお金を使ったギャンブルの種類】

【問15】過去１年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。（単一選択）

過去１年にギャンブル経験がある者の中で、最もお金を使ったギャンブルの種類は、宝くじ（51.4％）が最も多く、次いでパチンコ（15.8％）であった。（図表 2-15）

図表 2-15 最もお金を使ったギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	663 (40.9%)	652 (69.8%)	1,315 (51.4%)
パチンコ	302 (18.6%)	102 (10.9%)	404 (15.8%)
パチスロ	206 (12.7%)	41 (4.4%)	247 (9.7%)
競馬	184 (11.3%)	45 (4.8%)	229 (9.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	134 (8.3%)	57 (6.1%)	191 (7.5%)
サッカーくじ	67 (4.1%)	20 (2.1%)	87 (3.4%)
競艇	26 (1.6%)	8 (0.9%)	34 (1.3%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）	12 (0.7%)	4 (0.4%)	16 (0.6%)
競輪	12 (0.7%)	0 (0.0%)	12 (0.5%)
海外のカジノ	8 (0.5%)	3 (0.3%)	11 (0.4%)
その他のギャンブル	7 (0.4%)	1 (0.1%)	8 (0.3%)
オートレース	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)
計	1,622 (100.0%)	934 (100.0%)	2,556 (100.0%)

※問15 集計から除外：質問遷移（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、設問内矛盾（n=40）（2つ以上選択）、設問間矛盾（n=771）（問15で選択しているギャンブルの種類につき問13で回答なし）、無回答（n=199）、答えたくない（n=36）、選択肢13「過去１年間はギャンブルを全くしていない」（n=2,474）

【過去1年間でギャンブルに使った金額】

【問16】過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。

（勝ったお金は含めずに回答）

1ヶ月あたりギャンブルに使用する金額は、0円の回答を含めない場合、男性では1万円以上～5万円未満、女性では2千円以上～5千円未満が最も多かった。月に1円以上ギャンブルにかける場合の金額の中央値は男性が10,000円/月、女性が3,000円/月であった。（図表2-16・図表2-17）

図表2-16 ギャンブルにかけているお金（1ヶ月あたり、勝ったお金は含めず）

金額	男性 n (%)	女性 n (%)	全体 n (%)
0円	1,090 (37.3%)	1,362 (57.2%)	2,452 (46.2%)
1円以上～2千円未満	217 (7.4%)	261 (11.0%)	478 (9.0%)
2千円以上～5千円未満	283 (9.7%)	275 (11.6%)	558 (10.5%)
5千円以上～1万円未満	210 (7.2%)	130 (5.5%)	340 (6.4%)
1万円以上～5万円未満	721 (24.7%)	271 (11.4%)	992 (18.7%)
5万円以上～10万円未満	157 (5.4%)	37 (1.6%)	194 (3.7%)
10万円以上～50万円未満	176 (6.0%)	32 (1.3%)	208 (3.9%)
50万円以上～100万円未満	23 (0.8%)	4 (0.2%)	27 (0.5%)
100万円以上～200万円未満	24 (0.8%)	4 (0.2%)	28 (0.5%)
200万円以上～500万円未満	14 (0.5%)	1 (0.0%)	15 (0.3%)
500万円以上～1000万円未満	5 (0.2%)	1 (0.0%)	6 (0.1%)
1000万円以上	5 (0.2%)	2 (0.1%)	7 (0.1%)
計	2,925 (100.0%)	2,380 (100.0%)	5,305 (100.0%)

図表2-17 ギャンブルにかける金額*

単位：1ヶ月あたりの金額（円）

	男性 (n=1,835)	女性 (n=1,018)	全体 (n=2,853)
最小値	1	1	1
第一四分位数	3,000	1,500	3,000
中央値	10,000	3,000	10,000
第三四分位数	30,000	10,000	24,000
最大値	20,000,000	20,000,000	20,000,000

※1ヶ月に1円以上かける回答者での集計

※問16集計から除外：質問遷移（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、設問間矛盾（n=608）

（問15で過去1年間ギャンブルをしていない・答えないと回答しているのに問16で1円以上と回答、問15でいずれかのギャンブルの種類を回答しているのに問16に0円と回答）、無回答（n=217）

（5）ギャンブル開始年齢

【問17】初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。

全体の57.5%（男性52.0%，女性64.5%）が20歳代と回答した。20歳未満の年齢を回答したのは、女性の17.3%に対し、男性は43.2%であり、男性の方が低い年齢でギャンブルを経験している割合が高かった。（図表2-18）

図表2-18 初めてギャンブルをするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0－9歳	6 (0.2%)	12 (0.5%)	18 (0.3%)
10－19歳	1,391 (43.0%)	436 (16.8%)	1,827 (31.4%)
20－29歳	1,681 (52.0%)	1,671 (64.5%)	3,352 (57.5%)
30－39歳	116 (3.6%)	280 (10.8%)	396 (6.8%)
40－49歳	25 (0.8%)	113 (4.4%)	138 (2.4%)
50－59歳	11 (0.3%)	60 (2.3%)	71 (1.2%)
60－69歳	5 (0.2%)	19 (0.7%)	24 (0.4%)
70－74歳	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
全体	3,235 (100.0%)	2,592 (100.0%)	5,827 (100.0%)

※問17集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=300）、回答矛盾（n=3）（問2の年齢より大きい数値を回答）

【問18】あなたが少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか？

【問12】で、いずれかのギャンブルを経験したことがある（生涯ギャンブル経験あり）と回答した者を対象に、習慣的なギャンブルを開始した年齢を尋ねた。男性・女性ともに20歳代に習慣的なギャンブルを開始した割合が最も高かった。（図表2-19）

図表2-19 習慣的にギャンブルをするようになった年齢

年齢区分	男性	女性	全体
0－9歳	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)
10－19歳	434 (24.8%)	45 (9.5%)	479 (21.5%)
20－29歳	914 (52.1%)	215 (45.4%)	1,129 (50.7%)
30－39歳	214 (12.2%)	89 (18.8%)	303 (13.6%)
40－49歳	109 (6.2%)	61 (12.9%)	170 (7.6%)
50－59歳	65 (3.7%)	45 (9.5%)	110 (4.9%)
60－69歳	16 (0.9%)	18 (3.8%)	34 (1.5%)
70－74歳	0 (0.0%)	1 (0.2%)	1 (0.0%)
全体	1,753 (100.0%)	474 (100.0%)	2,227 (100.0%)
※習慣的にギャンブルをしたことはない	1,394	2,014	3,408

※問18集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=481）、回答矛盾（n=14）（問2の年齢より大きい数値を回答、問17の年齢より小さい数値を回答）

※（％）は、これまでに「習慣的にギャンブルをしたことがない」と回答した者を除いた割合。

(6) ギャンブルに関する相談先

【問37】あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブルのことで、だれか（どこか）に相談したことはありますか。（複数選択）

生涯ギャンブル経験がある者のうち、自身のギャンブル問題について、相談経験をたずねたところ、「だれ（どこ）にも相談したことはない」と回答したのは全体の94.7%であった。相談先として最も多かったのは、家族や友人であった。（図表2-20）

図表2-20 男女別 ギャンブルでの相談経験の有無と相談先

相談先	男性	女性	全体
家族や友人	179 (5.7%)	87 (3.4%)	266 (4.6%)
学校の先生や学生相談窓口	1 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.0%)
公的な相談機関 (市区町村や精神保健福祉センター、保健所等)	4 (0.1%)	3 (0.1%)	7 (0.1%)
医療機関	2 (0.1%)	2 (0.1%)	4 (0.1%)
法律の専門家（弁護士、司法書士等）	4 (0.1%)	2 (0.1%)	6 (0.1%)
民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）	4 (0.1%)	3 (0.1%)	7 (0.1%)
自助グループ	0 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)
その他	15 (0.5%)	16 (0.6%)	31 (0.5%)
だれ（どこ）にも相談したことはない	2,955 (93.7%)	2,479 (95.9%)	5,434 (94.7%)
回答者計	3,155 (100.0%)	2,584 (100.0%)	5,739 (100.0%)

※問37 集計から除外：条件分岐（問12でいずれかのギャンブルを選択していないもの）、無回答（n=391）

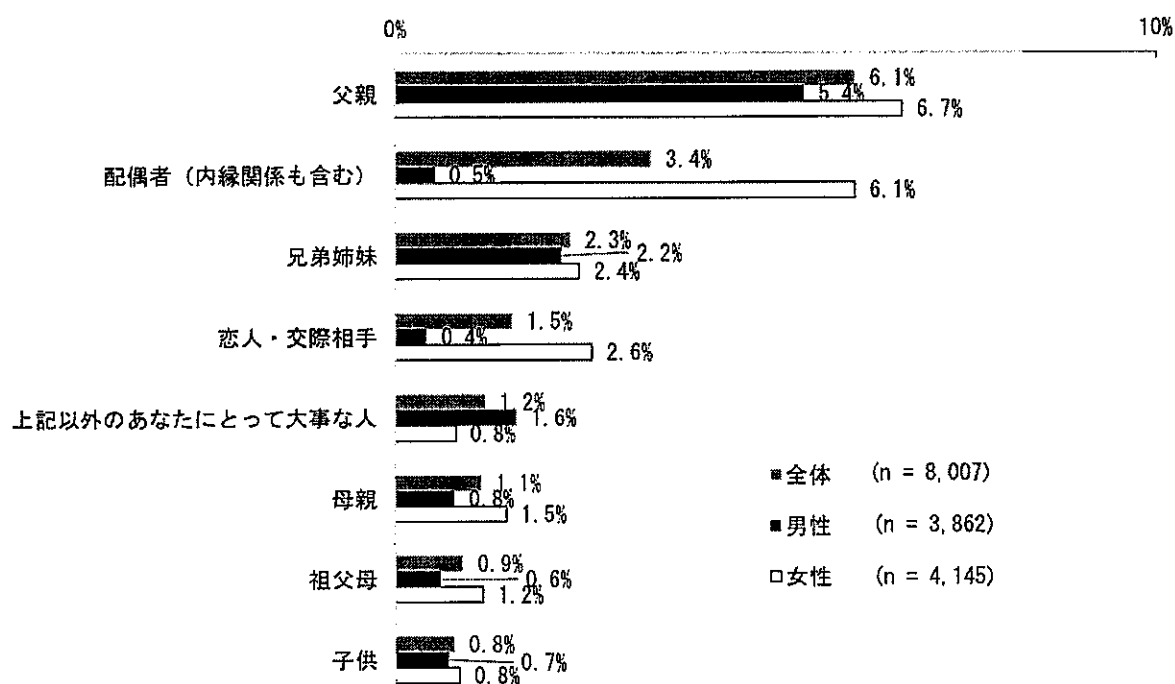
（7）家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響

【家族や重要な他者のギャンブル問題とその影響】

【問 38】次にあげる人の中に、ギャンブルの問題がある（あった）人はいますか。今はなくとも過去にギャンブルの問題があった人についても○をつけてください。（複数選択）

家族や重要な他者の中に、ギャンブルの問題がある（あった）と回答したのは、全体の 14.4%（男性：10.5%、女性 18.1%）であった。ギャンブルの問題がある（あった）家族や重要な他者は、男性では「父親」5.4%、「兄弟姉妹」2.2%、「上記以外の人」1.6%の順で割合が高かった。女性では、「父親」6.7%、「配偶者」6.1%、「恋人・交際相手」2.6%の順で割合が高かった。（図表 2-21）

図表 2-21 ギャンブルの問題がある（あった）人



※問 38 集計から除外：無回答（n=144）、答えたくない（n=72）

【家族や重要な他者のギャンブル問題から受けた影響】

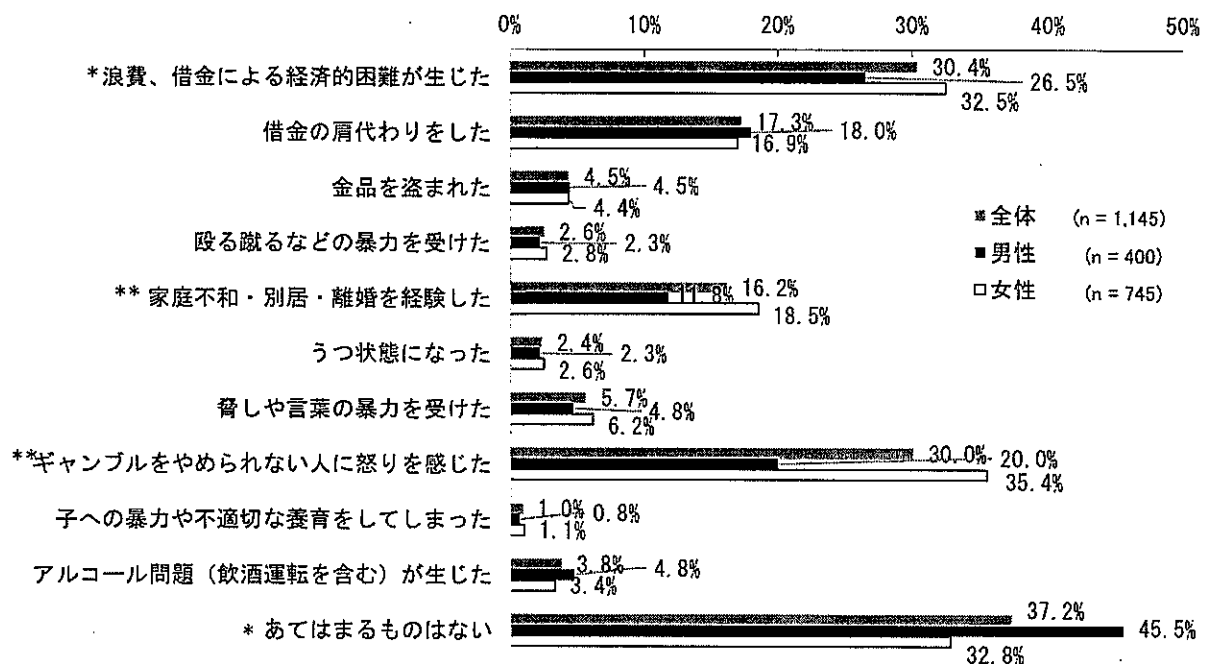
【問39】あなたは、先ほど【問38】で答えた人のギャンブル問題から、影響を受けたことがありますか。影響を受けたことについて、あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択）

家族や重要な他者にギャンブル問題がある（あった）と回答した者において、受けた影響として回答が多かったものは、「あてはまるものがない」を除くと、「浪費、借金による経済的困難が生じた」、「ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた」であった。受けた影響について男女を比較すると、男性より女性の方が「浪費、借金による経済的困難が生じた」「ギャンブルをやめられない人に怒りを感じた」「家庭不和・別居・離婚を経験した」と回答した割合が有意に高かった。

($\chi^2(1)=4.404, p<.05$), ($\chi^2(1)=29.506, p<.01$), ($\chi^2(1)=8.815, p<.01$)

一方で、「あてはまるものはない」と回答した割合は、女性（32.8%）より男性（45.5%）の方が有意に高かった。（ $\chi^2(1)=18.105, p<.01$ ）（図表2-22）

図表2-22 家族や重要な他者のギャンブル問題から受けた影響



※問38で「いない」、「答えたくない」、「無回答」とした（n=7,067）および、問39における無回答（n=11）を除く、合計 n=1,145 を集計対象とした。

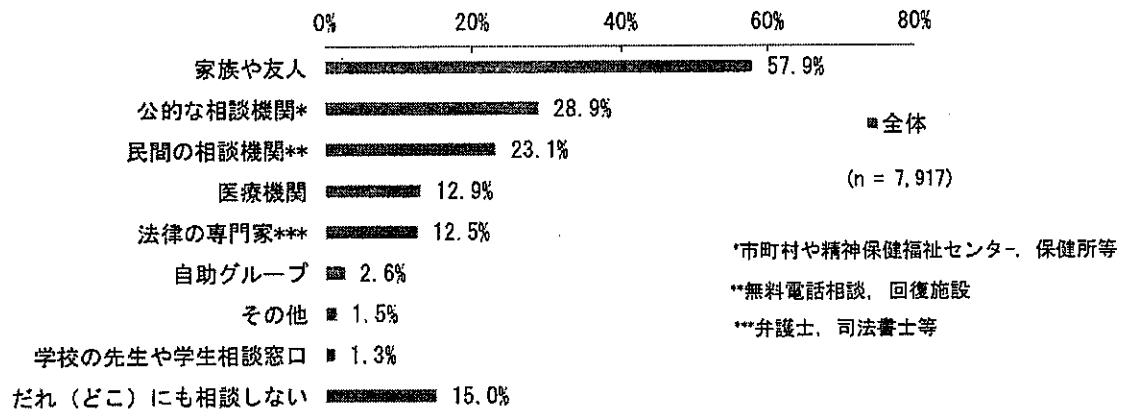
※ χ^2 検定による男女比較で有意差があった項目 ** $p < .01$, * $p < .05$

【家族や重要な他者のギャンブル問題と相談先】

【問40】もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ（どこ）に相談しますか。あてはまる番号を全て選んで○をつけてください。（複数選択）

ギャンブルのことで困った時の相談先としては、「家族や友人」を選択した回答者が最も多く（57.9%）、次いで「公的な相談機関」が28.9%であった。一方、全体の15.0%は「だれ（どこ）にも相談しない」と回答した。（図表2-23）

図表2-23 家族や重要な他者のギャンブル問題と相談先



※問40 集計から除外：無回答（n=225）、答えたくない（n=8）

2.6.3 「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合の推計

ギャンブル障害のスクリーニングテストとして SOGS, PGSI（第2章 2.2 調査方法参照）の2種類の尺度を用いて、わが国における「ギャンブル等依存が疑われる者」の割合を推計した。なお本調査では、「過去1年間にギャンブル経験がある者」を対象に過去1年間のギャンブルについてスクリーニングテストの得点を集計した。したがって、本調査では過去1年間ににおけるギャンブル等依存が疑われる者が、どの程度の割合存在しているのかを示す推計値を算出した。

（1）SOGS（South Oaks Gambling Screen）による割合の推計

① SOGS 得点の集計方法

調査（A）調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問22～問35】が SOGS の得点項目に該当する。SOGS 得点の集計サンプルの概要を図表 2-24 に示す。

まず、「ギャンブル等依存が疑われる者」の推計に際し、調査（A）の回答者をギャンブル経験の有無からグループに分けて検証した。「過去1年間のギャンブル経験あり」と回答した2,759サンプルのうち、SOGS 尺度の回答に不備があった238サンプルを除く2,521サンプルを対象に、SOGS 得点を集計した。また、「過去1年のギャンブル経験なし」「生涯ギャンブル経験なし」の者の SOGS 得点は、0点として取り扱った。

図表 2-24 SOGS 得点集計サンプルの概要

SOGS 得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル経験ありのうち SOGS 該当質問に完答	2,521	→ SOGS 得点集計の対象
過去1年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,464	→ SOGS 得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	7,985	→ 「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年ギャンブル経験ありの者のうち、SOGS 尺度（問22～問35）の回答に不備がある者（n=238）は、集計から除外

② SOGS 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本研究では、SOGS 得点 5 点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、SOGS 得点 5 点以上に該当した者は 165 名（男性 137 名、女性 28 名）であった。（図表 2-25）

年齢調整⁸⁾後の SOGS 得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者（5 点以上）の割合は、全体で 2.2%（95%信頼区間⁹⁾:1.9～2.5）で、男性が 3.7%（95%信頼区間:3.2～4.4）、女性が 0.7%（95%信頼区間:0.4～1.0）であった。（図表 2-26）

図表 2-25 年齢調整前の SOGS 得点分布

		男性	女性	全体
SOGS 得点	5 点未満	3,674 (96.4%)	4,146 (99.3%)	7,820 (97.9%)
	5 点以上	137 (3.6%)	28 (0.7%)	165 (2.1%)
	全体	3,811 (100.0%)	4,174 (100.0%)	7,985 (100.0%)

図表 2-26 年齢調整後の SOGS 得点分布

			男性	女性	全体
SOGS 得点	5 点未満	人数	3,842	3,967	7,809
		割合	96.3%	99.3%	97.9%
	5 点以上	人数	149.3	26.2	175.6
		割合 (95% 信頼区間)	3.7%(3.2～4.4)	0.7%(0.4～1.0)	2.2%(1.9～2.5)
	全体	合計人数	3,991	3,994	7,985
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

⁸⁾ 年齢調整：全人口における年齢構成と、本調査の回答者における年齢構成の差異の影響を取り除くため、令和元年 10 月 1 日現在人口を基準人口として補正し、年齢調整後の割合を算出した。年齢調整の詳細については、本報告書「2.4 年齢調整方法」を参照。

⁹⁾ 95%信頼区間：同じ調査を 100 回実施した場合、95 回はその区間内に真の値が含まれることを意味する。

（2）PGSI（The Problem Gambling Severity Index）による割合の推計

① PGSI 得点の集計方法

調査（A）調査票「娯楽と健康に関する調査」における【問36】がPGSI尺度に該当する。PGSI得点の集計サンプルの概要を図表2-29に示す。

図表2-29 PGSI得点集計サンプルの概要

PGSI得点集計対象者の内訳	サンプル数	
過去1年ギャンブル経験ありのうち PGSI該当質問に完答	2,643	→ PGSI得点集計の対象
過去1年ギャンブル経験なし (生涯ギャンブル経験のない者も含む)	5,464	→ PGSI得点は0点として処理
割合推計に用いたサンプルの合計	8,107	→ 「ギャンブル等依存が疑われる者」の 割合推計の分母

※過去1年ギャンブル経験ありの者のうち、PGSI尺度（問36）の回答に不備がある者（n=116）は、集計から除外

② PGSI 得点によるギャンブル等依存が疑われる者の人数と割合

本研究では、PGSI得点8点以上の回答者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。その結果、PGSI得点8点以上に該当した者は122名（男性103名、女性19名）であった。（図表2-30）

年齢調整後のPGSI得点分布において、ギャンブル等依存が疑われる者（8点以上）の割合は全体で1.6%（95%信頼区間：1.4～1.9）、男性2.8（95%信頼区間：2.3～3.4）、女性0.4%（95%信頼区間：0.3～0.7）であった。（図表2-31）

図表2-30 年齢調整前のPGSI得点分布

		男性	女性	全体
PGSI区分	8点未満	3,775 (97.3%)	4,210 (99.6%)	7,985 (98.5%)
	8点以上	103 (2.7%)	19 (0.4%)	122 (1.5%)
	全体	3,878 (100.0%)	4,229 (100.0%)	8,107 (100.0%)

図表2-31 PGSI集計結果（年齢調整後）

			男性	女性	全体
PGSI 得点	8点 未満	人数	3,939	4,037	7,976
		割合	97.2%	99.6%	98.4%
	8点 以上	人数	113.3	17.6	130.8
		割合（95%信頼区間）	2.8%(2.3～3.4)	0.4%(0.3～0.7)	1.6%(1.4～1.9)
	全体	人数	4,052	4,055	8,107
		割合	100.0%	100.0%	100.0%

※集計から除外：問36の9項目に一つでも無回答が含まれる回答（n=116）は採点対象外とした。

※集計から除外：「わからない」と回答している設問は、無回答と同じ扱いとした。（Web回答のみ）

2.6.4 「ギャンブル等依存が疑われる者」のギャンブル行動

「ギャンブル等依存が疑われる者」（SOGS 得点 5 点以上）におけるギャンブル行動（経験したギャンブルの種類、最もお金をつぎ込んだギャンブル等）について集計した。

（1）SOGS 5 点以上 - 過去 1 年間で経験したギャンブルの種類（男女別）

【問 13】 【問 12】で○をつけたギャンブルについて、過去 1 年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。（各項目単一選択）

【過去 1 年間で経験したギャンブルの種類（男女別の割合）】

SOGS 得点 5 点以上の者における過去 1 年間で経験したギャンブルの種類は、全体でパチンコ（70.3%）が最も多かった。男性ではパチンコ（70.1%）、パチスロ（56.9%）、宝くじ（40.9%）の順で割合が高かった。女性では、パチンコ（71.4%）、宝くじ（42.9%）、パチスロ（32.1%）の順で割合が高かった。（図表 2-32）

図表 2-32 SOGS5 点以上 - 過去 1 年間で経験したギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性 (n=132)	女性 (n=28)	全体 (n=165)
パチンコ	96 (70.1%)	20 (71.4%)	116 (70.3%)
パチスロ	78 (56.9%)	9 (32.1%)	87 (52.7%)
競馬	32 (23.4%)	2 (7.1%)	34 (20.6%)
競輪	8 (5.8%)	1 (3.6%)	9 (5.5%)
競艇	14 (10.2%)	2 (7.1%)	16 (9.7%)
オートレース	2 (1.5%)	1 (3.6%)	3 (1.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	56 (40.9%)	12 (42.9%)	68 (41.2%)
サッカーくじ	17 (12.4%)	0 (0.0%)	17 (10.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	15 (10.9%)	1 (3.6%)	16 (9.7%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪等を除く）	12 (8.8%)	1 (3.6%)	13 (7.9%)
海外のカジノ	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
その他のギャンブル	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)

※集計から除外：設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択）、無回答、選択肢 1 「過去 1 年間はギャンブルを全くしていない」

【過去1年間の頻度（SOGS 5点以上（n=165）における割合）】

SOGS 得点 5 点以上の者において、過去 1 年間で実施したギャンブルの種類のうち、「週 1 回以上」の頻度で実施されていた割合が最も高いのは、パチンコ（25.5%）であった。続いて、パチスロ（18.8%）、競馬（8.5%）で割合が高かった。（図表 2-33）

図表 2-33 SOGS5 点以上 - 過去 1 年間でギャンブルをした頻度

単位：人数（n=165 における割合%）

ギャンブルの種類	SOGS5 点以上（n=165）における頻度		
	週 1 回未満	週 1 回以上	合計
パチンコ	74 (44.8%)	42 (25.5%)	116 (70.3%)
パチスロ	56 (33.9%)	31 (18.8%)	87 (52.7%)
競馬	20 (12.1%)	14 (8.5%)	34 (20.6%)
競輪	9 (5.5%)	0 (0.0%)	9 (5.5%)
競艇	14 (8.5%)	2 (1.2%)	16 (9.7%)
オートレース	3 (1.8%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	56 (33.9%)	12 (7.3%)	68 (41.2%)
サッカーくじ	13 (7.9%)	4 (2.4%)	17 (10.3%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	9 (5.5%)	7 (4.2%)	16 (9.7%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪等を除く）	7 (4.2%)	6 (3.6%)	13 (7.9%)
海外のカジノ	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
その他のギャンブル	1 (0.6%)	1 (0.6%)	2 (1.2%)

(2) 公営競技：主な券の購入方法（SOGS5 点以上と 5 点未満の比較）

【問 14】 【問 12】で競馬、競輪、競艇、オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。
主にどこで券を購入しますか。（競技ごとに単一選択）

【問 13】で競馬、競輪、競艇、オートレースの経験が過去 1 年間に「週 1 回未満」または「週 1 回以上」と回答し、かつ、SOGS の該当質問に完答者（SOGS 得点を集計した者）を対象に集計した。各公営競技の券の購入方法について、SOGS 5 点以上と 5 点未満で比較したところ、有意差はなかった。

(図表 2-34)

図表 2-34 公営競技：主な券の購入方法（SOGS5 点以上 5 点未満の比較）

公営競技	SOGS 得点	ギャンブル場 / 場外 売り場	オンライン (インターネット)	ギャンブル場 / 場外 とオンラインの両方	合計
競馬	5 点未満	87 (25.4%)	202 (59.1%)	53 (15.5%)	342 (100.0%)
	5 点以上	6 (18.8%)	21 (65.6%)	5 (15.6%)	32 (100.0%)
競輪	5 点未満	13 (50.0%)	8 (30.8%)	5 (19.2%)	26 (100.0%)
	5 点以上	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	8 (100.0%)
競艇	5 点未満	42 (63.6%)	17 (25.8%)	7 (10.6%)	66 (100.0%)
	5 点以上	8 (57.1%)	4 (28.6%)	2 (14.3%)	14 (100.0%)
オートレース	5 点未満	1 (11.1%)	6 (66.7%)	2 (22.2%)	9 (100.0%)
	5 点以上	1 (100.0)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)

(3) SOGS 5 点以上 - 過去 1 年間で 1 カ月あたりにギャンブルに費やす金額（男女別）

【問 16】 過去 1 年間、1 ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。
 （勝ったお金は含めずに回答）

SOGs 得点 5 点以上の者において、1 か月あたりギャンブルに使用する金額は、男女ともに 1 万円以上 - 5 万円未満が最も多かった。月に 1 円以上ギャンブルにかける場合の金額の中央値は男性が 50,000 円 / 月、女性が 27,500 円 / 月であった。（図表 2-35・図表 2-36）

図表 2-35 SOGS5 点以上 - ギャンブルにかけているお金（1 か月あたり、勝ったお金は含めず）

金額	男性 n(%)	女性 n(%)	全体 n(%)
0 円	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1 円以上 - 2 千円未満	2 (1.5%)	1 (3.8%)	3 (1.9%)
2 千円以上 - 5 千円未満	1 (0.8%)	2 (7.7%)	3 (1.9%)
5 千円以上 - 1 万円未満	5 (3.8%)	2 (7.7%)	7 (4.4%)
1 万円以上 - 5 万円未満	50 (37.9%)	12 (46.2%)	62 (39.2%)
5 万円以上 - 10 万円未満	30 (22.7%)	6 (23.1%)	36 (22.8%)
10 万円以上 - 50 万円未満	33 (25.0%)	3 (11.5%)	36 (22.8%)
50 万円以上 - 100 万円未満	5 (3.8%)	0 (0.0%)	5 (3.2%)
100 万円以上 - 200 万円未満	3 (2.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)
200 万円以上 - 500 万円未満	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)
500 万円以上 - 1000 万円未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1000 万円以上	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
計	132 (100.0%)	26 (100.0%)	158 (100.0%)

図表 2-36 SOGS5 点以上 - ギャンブルにかける金額

単位：1 カ月あたりの金額（円）

	男性 (n=132)	女性 (n=26)	全体 (n=158)
最小値	100	750	100
第一四分位数	20,000	10,000	20,000
中央値	50,000	27,500	50,000
第三四分位数	100,000	50,000	100,000
最大値	10,000,000	350,000	10,000,000

※問 16 集計から除外：矛盾・不明回答（n=7）

(4) SOGS 5 点以上 - 過去1年間最もお金をつぎこんだギャンブルの種類（男女別）

【問15】過去1年間で、最もお金を使った（つぎ込んだ）ギャンブルはどれですか。（単一選択）

SOGS 得点5点以上の者において、最もお金を使ったギャンブルの種類は、全体でパチンコ（38.7%）が最も多かった。男性ではパチスロ（35.4%）、パチンコ（34.6%）、競馬（12.3%）の順で割合が高かった。女性では、パチンコ（60.0%）、パチスロ（16.0%）・宝くじ（16.0%）の順で割合が高かった。（図表2-37）

図表2-37 SOGS5点以上—最もお金を使ったギャンブルの種類

ギャンブルの種類	男性	女性	全体
パチンコ	45 (34.6%)	15 (60.0%)	60 (38.7%)
パチスロ	46 (35.4%)	4 (16.0%)	50 (32.3%)
競馬	16 (12.3%)	1 (4.0%)	17 (11.0%)
競輪	3 (2.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)
競艇	6 (4.6%)	0 (0.0%)	6 (3.9%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	7 (5.4%)	4 (16.0%)	11 (7.1%)
サッカーくじ	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	4 (3.1%)	1 (4.0%)	5 (3.2%)
インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪等を除く）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他のギャンブル	2 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)
全体	130 (100.0%)	25 (100.0%)	155 (100.0%)

※問15 集計から除外：矛盾・不明回答（n=10）

2.6.5 「ギャンブル等依存が疑われる者」における「ギャンブル関連問題」

SOGS 5 点以上を「ギャンブル等依存が疑われる者」、5 点未満を「ギャンブル等依存のないもの」とし、「ギャンブル関連問題」との関連を検証した。

（1）ギャンブル問題と抑うつ、不安との関連

ギャンブル問題と「抑うつ・不安」との関連を検証するため、抑うつ・不安のスクリーニング尺度（K6）を用いた。（図表 2-38）

【問 43】過去 30 日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。
（それぞれ単一選択）

図表 2-38 < K6 得点の評価方法 >

0～4 点	問題なし
5～9 点	何らかのうつ・不安の問題がある可能性がある
10～12 点	うつ・不安障害が疑われる
13 点以上	重度のうつ・不安障害が疑われる

【全体の傾向：抑うつ・不安】

過去 1 カ月の間に「抑うつ・不安」の問題がある者（K6 得点 5 点以上）は、全体の 29.3%であった。男女別でみると K6 得点 5 点以上の割合は、男性（25.9%）より女性（32.4%）の方が高かった。

（ $\chi^2(3)=41.091, p < 0.0001$ ）（図表 2-39）

図表 2-39 K6 得点の分布

		男性	女性	全体
K6 得点 区分	0～4 点	2,787 (74.1%)	2,762 (67.6%)	5,549 (70.7%)
	5～9 点	621 (16.5%)	812 (19.9%)	1,433 (18.3%)
	10～12 点	181 (4.8%)	251 (6.1%)	432 (5.5%)
	13 点以上	174 (4.6%)	261 (6.4%)	435 (5.5%)
	全体	3,763 (100.0%)	4,086 (100.0%)	7,849 (100.0%)

※問 43 集計から除外：設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択）、答えたくない（1 項目以上）、無回答（1 項目以上）

【ギャンブル等依存が疑われる者とうつ、不安の関連】

SOGS の得点区分別に K6 の得点区分を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では有意に抑うつ・不安が強いことが示された。（ $\chi^2(3)=55.574, p<.01$ ）（図表 2-40）

図表 2-40 ギャンブル等依存とうつ、不安の相関

		K6				
		0～4 点**	5～9 点*	10～12 点*	13 点以上**	全体
SOGS 得点	5 点未満	5,327 (71.2%)	1,360 (18.2%)	402 (5.4%)	399 (5.3%)	7,488 (100.0%)
	5 点以上	76 (48.4%)	40 (25.5%)	15 (9.6%)	26 (16.6%)	157 (100.0%)
	全体	5,403 (70.7%)	1,400 (18.3%)	417 (5.5%)	425 (5.6%)	7,645 (100.0%)

※集計から除外：問 43 で設問内矛盾（1 項目内で 2 つ以上選択）・答えたくない（1 項目以上）・無回答（1 項目以上）、SOGS（問 22-35）に回答不備（n=204）

※残差分析の結果 * $p<.05$, ** $p<.01$

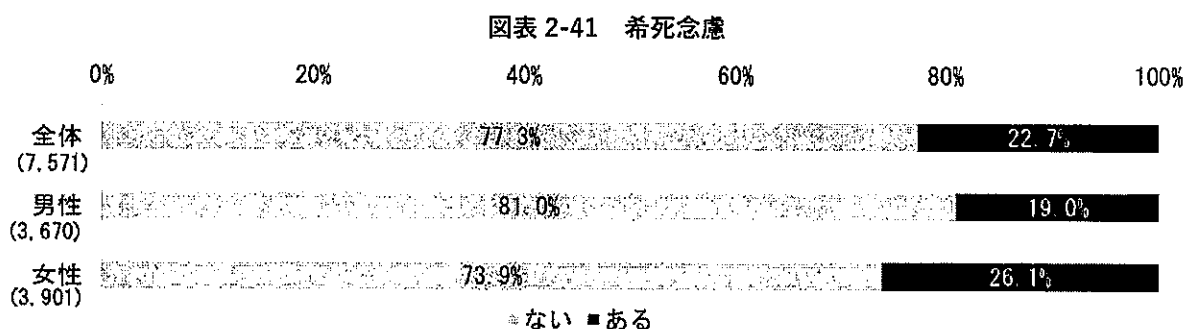
（2）ギャンブル問題と希死念慮・自殺企図との関連

【問44】あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

【問45】あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

【全体の傾向：希死念慮】

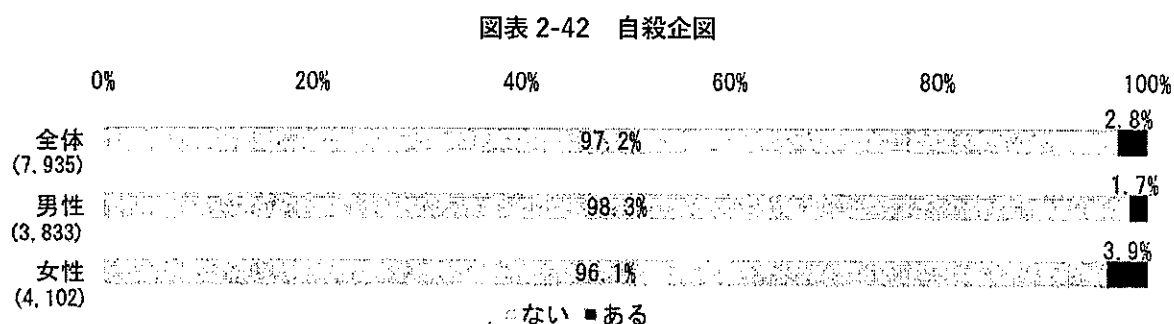
これまでに自殺したいと考えたことがあるとの回答割合は、全体で22.7%であり、男性では19.0%、女性では26.1%であった。（図表2-41）



※問44 集計から除外：設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択）、答えたくない（n=554）、無回答（n=97）

【全体の傾向：自殺企図】

これまでに自殺未遂をしたことがあるとの回答割合は、全体では2.8%であり、男性では1.7%、女性では3.9%であった。（図表2-42）



※問45 集計から除外：答えたくない（n=202）、無回答（n=86）

【ギャンブル等依存が疑われる者と希死念慮】

SOGS の得点区別に「これまでに自殺したいと考えたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では希死念慮を有する割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=27.611, p<.01)$ （図表 2-43）

図表 2-43 ギャンブル等依存と希死念慮

		希死念慮		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5 点未満	5,606 (77.8%)	1,600 (22.2%)	7,206 (100.0%)
	5 点以上	95 (60.1%)	63 (39.9%)	158 (100.0%)
	全体	5,701 (77.4%)	1,663 (22.6%)	7,364 (100.0%)

※集計から除外：問 44 で設問内矛盾（n=1）（2 つ以上選択）・答えたくない（n=554）・無回答（n=97），
SOGS（問 22-35）に回答不備（n=207）

【ギャンブル等依存が疑われる者と自殺企図】

SOGS の得点区別に「あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか」との質問への回答割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では自殺企図を経験した割合が有意に高かった。 $(\chi^2(1)=4.651, p<.05)$ （図表 2-44）

図表 2-44 ギャンブル等依存と自殺企図

		自殺企図		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5 点未満	7,352 (97.2%)	208 (2.8%)	7,560 (100.0%)
	5 点以上	152 (94.4%)	9 (5.6%)	161 (100.0%)
	全体	7,504 (97.2%)	217 (2.8%)	7,721 (100.0%)

※集計から除外：問 45 で答えたくない（n=202），無回答（n=86），SOGS（問 22-35）に回答不備（n=214）

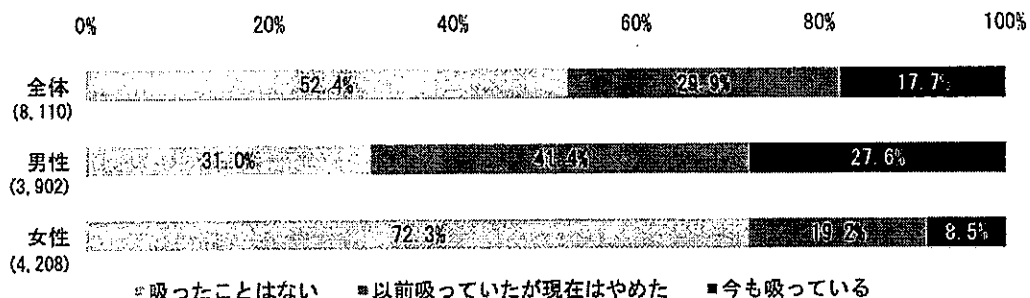
(3) ギャンブル問題と喫煙の関連

【問 46】あなたの喫煙（紙巻きタバコ、電子タバコ、加熱式タバコ含む）について、
あてはまるものを1つ選んでください。

【全体の傾向：喫煙】

現在または過去の喫煙があるとの回答割合は、全体で 47.6% であり、男性では 69.0%，女性では 27.7% であった。（図表 2-45）

図表 2-45 喫煙の有無



※問 46 集計から除外：設問内矛盾（n=1）（2 つ以上選択），答えたくない（n=43），無回答（n=69）

【ギャンブル等依存が疑われる者と喫煙の関連】

SOGS の得点区別に喫煙歴を「吸ったことはない」「以前吸っていたが現在はやめた」「今も吸っている」に分類して比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では現在も喫煙している割合が有意に高かった。 $(\chi^2(2)=126.049, p<.01)$ （図表 2-46）

図表 2-46 ギャンブル等依存と喫煙の相関

		喫煙歴			
		吸ったことはない **	以前吸っていたが現在はやめた (ns)	今も吸っている **	全体
SOGS 得点	5点未満	4,134 (53.5%)	2,291 (29.7%)	1,299 (16.8%)	7,724 (100.0%)
	5点以上	35 (21.5%)	48 (29.4%)	80 (49.1%)	163 (100.0%)
	全体	4,169 (52.9%)	2,339 (29.7%)	1,379 (17.5%)	7,887 (100.0%)

※集計から除外：問 46 で設問内矛盾 (n=1) (2 つ以上選択)・答えたくない (n=43)・無回答 (n=69),
SOGS (問 22-35) に回答不備 (n=223)

※残差分析の結果 * $p<.05$, ** $p<.01$, ns: 有意差なし

(4) ギャンブル問題と飲酒問題との関連

【問 47】 あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか。(単一選択)

【問 48】 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか。(単一選択)

【問 49】 1 度に 6 ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか。(単一選択)

問 47-49 で用いた AUDIT-C とは、アルコール使用障害のスクリーニングテストであり、AUDIT (The Alcohol Use Disorders Identification Test) の質問の中から飲酒量、飲酒頻度、多量飲酒頻度を問う 3 項目によってアルコール問題の有無を評価するもので、12 点満点中、男性は 5 点以上、女性は 4 点以上の場合に、何らかのアルコール問題があるとされる。

【全体の傾向：飲酒問題】

男性 3,683 名中 AUDIT-C 5 点以上は 1,500 名 (40.7%) であった。女性 3,888 名中、AUDIT-C 4 点以上は 902 名 (23.2%) であった。(図表 2-47)

図表 2-47 AUDIT-C 得点の分布

		男性	女性	全体
AUDIT-C 得点区分	男性 0-4 点 / 女性 0-3 点	2,183 (59.3%)	2,986 (76.8%)	5,169 (68.3%)
	男性 5 点以上 / 女性 4 点以上	1,500 (40.7%)	902 (23.2%)	2,402 (31.7%)
	全体	3,683 (100.0%)	3,888 (100.0%)	7,571 (100.0%)

※集計から除外：問 47-49 のうち、1 つ以上無回答・答えない・矛盾回答 (1 問で 2 つ以上の選択肢を選択)

【ギャンブル等依存が疑われる者と飲酒問題の関連】

SOGs の得点区分別に、AUDIT-C による飲酒問題のあり、なしの割合を比較したところ、有意な差は認められなかった。（図表 2-48）

図表 2-48 ギャンブル等依存と飲酒問題との関連

		飲酒問題		
		なし	あり	全体
SOGs 得点	5 点未満	4,950 (68.6%)	2,267 (31.4%)	7,217 (100.0%)
	5 点以上	97 (61.4%)	61 (38.6%)	158 (100.0%)
	全体	5,047 (68.4%)	2,328 (31.6%)	7,375 (100.0%)

※集計から除外：問 47-49 のうち、1 つ以上無回答・答えない・矛盾回答（1 問で 2 つ以上の選択肢を選択）、SOGs（問 22-35）に回答不備（n=196）

（5）ギャンブル問題と小児期逆境体験との関連

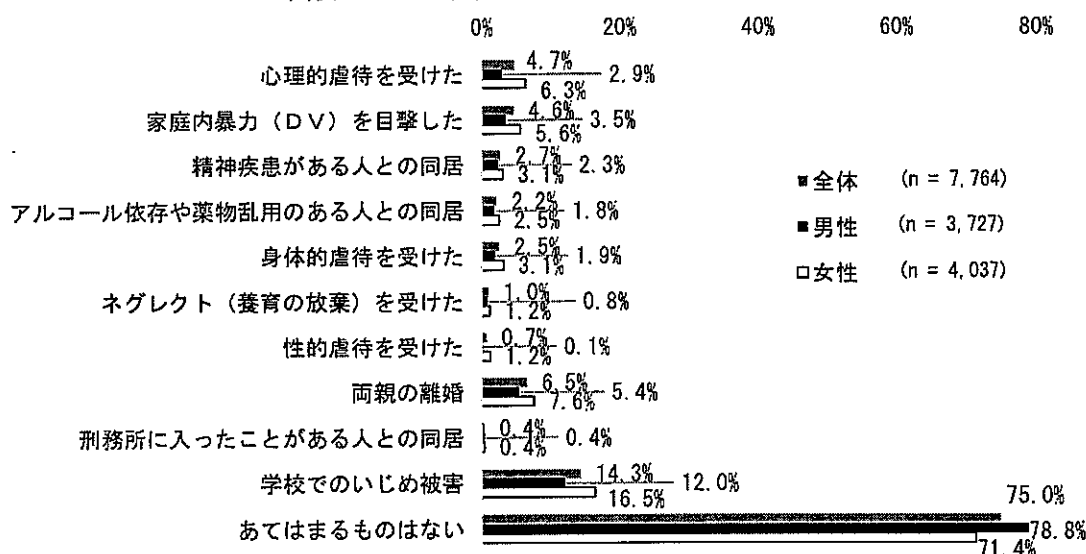
【問 51】 あなたが 18 歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。

【全体の傾向：小児期逆境体験】

選択肢 10 項目の逆境体験のうち、1 つ以上に該当した者は、全体で 25.0% であり、男性では 21.2%、女性では 28.6% であった。図表 2-49 では、それぞれの項目に該当すると回答した者の割合を示した。経験頻度が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であり、男性の 12.0%、

女性の 16.5% が「学校でのいじめ被害」を 18 歳までに経験したと回答した。（図表 2-49）

図表 2-49 小児期逆境経験の頻度



※問 51 集計から除外：答えたくない（n=280）、無回答（n=179）

【ギャンブル等依存が疑われる者と小児期逆境体験】

SOGS の得点区別に 18 歳までの小児期逆境体験（10 項目）のうち、1 項目以上に該当する者の割合を比較したところ、ギャンブル等依存が疑われる者の群では、割合が高かった。

($\chi^2(1) = 8.371, p < .01$) 性別で分けて比較しても同様の結果であった。（図表 2-50）

図表 2-50 ギャンブル等依存と小児期逆境経験

		小児期逆境体験		
		なし	あり	全体
SOGS 得点	5 点未満	5,561 (75.2%)	1,834 (24.8%)	7,395 (100.0%)
	5 点以上	105 (65.2%)	56 (34.8%)	161 (100.0%)
	全体	5,666 (75.0%)	1,890 (25.0%)	7,556 (100.0%)

※集計から除外：問 51 で答えたくない (n=280)・無回答 (n=179), SOGS (問 22-35) に回答不備 (n=208)

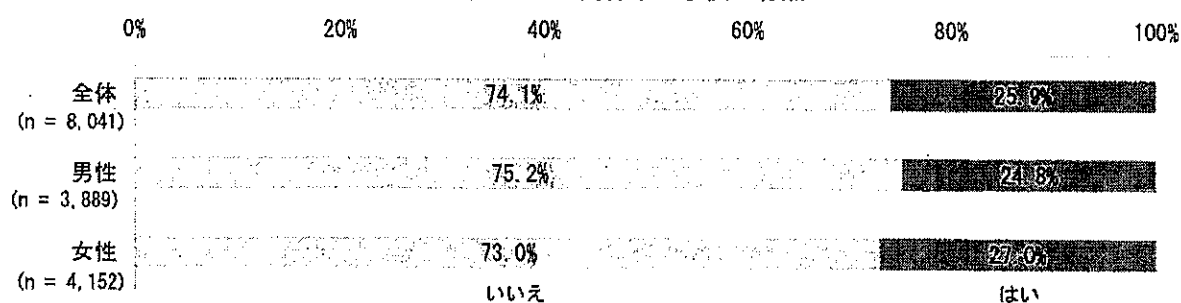
(6) ギャンブル問題と子育ての負担感との関連

【現在の 18 歳未満（児童）の子育て状況】

【問 9】 現在あなたは 18 歳以下のお子さんを子育て中ですか。（単一選択）

8,041 人中 2,083 人（25.9%）が 18 歳以下の子どもを子育て中と回答した。（図表 2-51）

図表 2-51 養育中の子供の有無



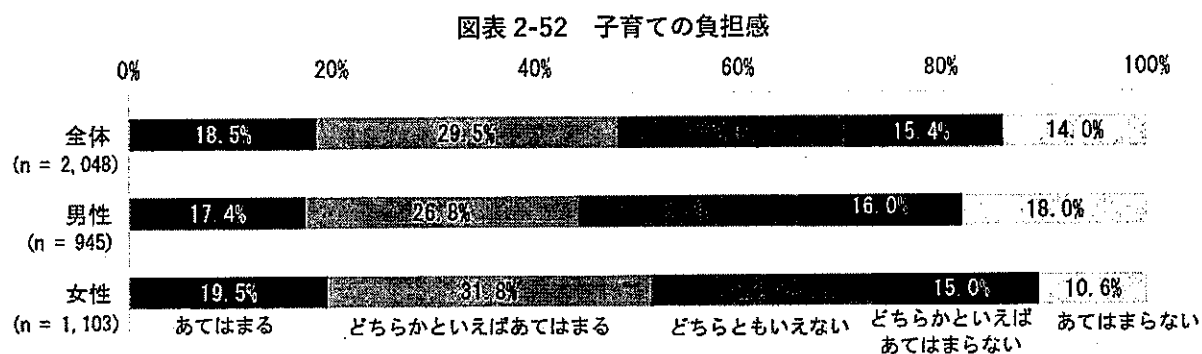
※問 9 集計から除外：無回答 (n=182)

【問10】あなたは、子育てについて心配や負担感が強いですか。（単一選択）

続いて、18歳以下の子どもを子育て中の回答者にのみ「子育ての負担感」について尋ねた。

【全体の傾向：子育ての負担感】

子育ての負担感については、全体で「どちらかといえばあてはまる」が29.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」の22.6%であった。負担感が少ないとの回答（「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」の合計）が29.4%であったのに対し、負担感が多いとの回答（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計）は48.0%と多かった。（図表2-52）



※問10集計から除外：条件分岐（問9で養育中ではないと回答）、設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択）、無回答（n=26）、答えない（n=10）

【ギャンブル等依存が疑われる者と子育ての負担感】

【問9】で子育て中と回答し、かつ SOGS 得点の集計対象とした2,003人について、SOGSの得点区別に子育ての負担感の回答割合を比較した。その結果、「あてはまる」の割合が SOGS 5点未満の18.2%に対し、SOGS 5点以上では27.8%であったが、有意な差は認めなかった。（図表2-53）

図表 2-53 ギャンブル等依存と子育ての負担感

		子育ての負担感					全体
		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる	
SOGS 得点	5点未満	279(14.3%)	304(15.6%)	436(22.4%)	576(29.6%)	354(18.2%)	1,949(100.0%)
	5点以上	4(7.4%)	8(14.8%)	15(27.8%)	12(22.2%)	15(27.8%)	54(100.0%)
	全体	283(14.1%)	312(15.6%)	451(22.5%)	588(29.4%)	369(18.4%)	2,003(100.0%)

※集計から除外：条件分岐（問9で養育中ではないと回答）、問10で設問内矛盾（n=1）（2つ以上選択）・無回答（n=26）・答えない（n=10）、SOGS（問22-35）に回答不備（n=45）

2.6.6 ギャンブル等依存症対策およびギャンブル依存に関する認識および新型コロナの影響

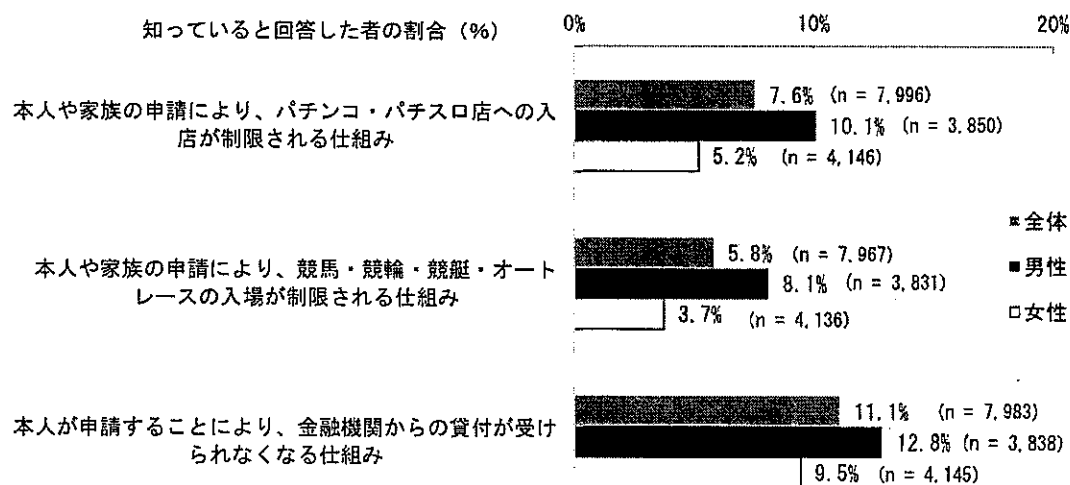
（1）ギャンブル等依存症対策の認知度

【問 41】ギャンブル依存症対策に関する下記の①～③の仕組みについて、知っている、または、知らない、を選んで○をつけてください。

【全体の傾向】

ギャンブル等依存症対策に関して、「知っている」との回答は、全体の「パチンコ・パチスロの入店制限」は7.6%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は5.8%、「金融機関からの貸付制限」が11.1%であった。また、全ての項目で女性より男性の方が「知っている」と回答した割合が高い傾向にあった。（図表 2-54）

図表 2-54 ギャンブル等依存症対策の認知度



※問 41 集計から除外：無回答

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるギャンブル等依存症対策に関する認知度】

ギャンブル等依存症対策に関して、いずれの項目でも SOGS5 点以上の者は、5 点未満のものと比べ、「知っている」と回答した割合が有意に高かった。SOGS5 点以上の者のうち、「パチンコ・パチスロの入店制限」は 25.0%、「競馬・競輪・競艇・オートレースの入場制限」は 16.0%、「金融機関からの貸付制限」は 19.6%が「知っている」と回答した。（図表 2-55）

図表 2-55 ギャンブル依存症対策等を「知っている」と回答した者の割合【SOGS 得点区分比較】

	本人や家族の申請により、パチンコ・パチスロ店への入店が制限される仕組み a	本人や家族の申請により、競馬・競輪・競艇・オートレースの入場が制限される仕組み b	本人が申請することにより、金融機関からの貸付が受けられなくなる仕組み c
SOGS5 点未満	543 (7.1%) 【有効回答数 7,607】	425 (5.6%) 【有効回答数 7,583】	832 (10.9%) 【有効回答数 7,599】
SOGS5 点以上	41 (25.0%) 【有効回答数 164】	26 (16.0%) 【有効回答数 163】	32 (19.6%) 【有効回答数 163】
全体	7,771	7,746	7,762

※集計から除外：問 41 で無回答、SOGS（問 22-35）に回答不備

※ χ^2 検定の結果 a： $\chi^2(1)=72.769, p<0.01$, b： $\chi^2(1)=29.293, p<0.01$, c： $\chi^2(1)=11.301, p<0.01$

(2) 依存症への考え方

【問 42】以下に掲げる病気になったのは、「本人の責任である」と思いますか。
（各疾患につき単一選択）

「本人の責任である」と思う人の割合（「そう思う」、「強くそう思う」の合計）はギャンブル依存症では 72.6%、アルコール依存症は 60.7%、うつ病では 8.8%であった。また、身体疾患で「本人の責任である」と思う人の割合は、がんは 3.6%、糖尿病は 28.5%であった。（図表 2-56）

図表 2-56 病気に対する考え方（男女別）

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	うつ病		アルコール依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,051 (27.7%)	1,237 (30.1%)	288 (7.6%)	237 (5.8%)
そう思わない	1,162 (30.6%)	1,380 (33.5%)	370 (9.7%)	425 (10.3%)
どちらでもない	1,150 (30.3%)	1,231 (29.9%)	783 (20.6%)	1,004 (24.4%)
そう思う	345 (9.1%)	222 (5.4%)	1,581 (41.6%)	1,762 (42.9%)
強くそう思う	87 (2.3%)	46 (1.1%)	779 (20.5%)	682 (16.6%)
n	3,795 (100.0%)	4,116 (100.0%)	3,801 (100.0%)	4,110 (100.0%)

病気になったのは「本人の責任である」と思うか	がん		ギャンブル依存症	
	男性	女性	男性	女性
全くそう思わない	1,851 (48.8%)	2,244 (54.6%)	243 (6.4%)	193 (4.7%)
そう思わない	923 (24.3%)	969 (23.6%)	235 (6.2%)	273 (6.7%)
どちらでもない	844 (22.3%)	788 (19.2%)	538 (14.2%)	683 (16.7%)
そう思う	133 (3.5%)	93 (2.3%)	1,511 (39.8%)	1,693 (41.3%)
強くそう思う	42 (1.1%)	19 (0.5%)	1,269 (33.4%)	1,260 (30.7%)
n	3,793 (100.0%)	4,113 (100.0%)	3,796 (100.0%)	4,102 (100.0%)

病気になるのは 「本人の責任である」 と思うか	糖尿病	
	男性	女性
全くそう思わない	593 (15.6%)	627 (15.2%)
そう思わない	664 (17.4%)	792 (19.2%)
どちらでもない	1,358 (35.6%)	1,632 (39.6%)
そう思う	973 (25.5%)	907 (22.0%)
強くそう思う	223 (5.9%)	160 (3.9%)
n	3,811 (100.0%)	4,118 (100.0%)

※問 42 集計から除外：設問内矛盾（2 つ以上選択）、無回答、答えたくない

（3）新型コロナウイルス感染拡大とインターネットを使ったギャンブル

【問 50】新型コロナウイルス感染症拡大前（令和2年1月時点）と現在を比べて、あなたのインターネットを使ったギャンブルはどのように変化しましたか。（単一選択）

【全体の傾向】

生涯ギャンブル経験のある者において、全体の 87.4%がインターネットを使ったギャンブルを「したことがない」と回答した。「新たに始めた」と「する機会が増えた」の合計は 2.2%,「する機会が減った」は 1.5%であった。（図表 2-57）

図表 2-57 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル【全体】

		男性	女性	全体
コロナ禍における インターネット ギャンブル利用の変化	新たに始めた	45 (1.4%)	15 (0.5%)	60 (1.0%)
	する機会が増えた	61 (1.9%)	12 (0.4%)	73 (1.2%)
	する機会が減った	68 (2.1%)	22 (0.8%)	90 (1.5%)
	する機会が変化はない	386 (11.7%)	155 (5.6%)	541 (8.9%)
	したことがない	2,733 (83.0%)	2,577 (92.7%)	5,310 (87.4%)
	全体	3,293 (100.0%)	2,781 (100.0%)	6,074 (100.0%)

※問 50 集計から除外：無回答（n=38）、答えたくない（n=18）

【ギャンブル等依存が疑われる者におけるコロナ禍のインターネットを使ったギャンブル】

過去1年間にギャンブル経験のある者で、問50に有効回答した者（N=2,510）を対象に、SOGs得点区分でインターネットギャンブル利用の変化について比較した。

インターネットを使ったギャンブルを「したことがない」と回答したのは、SOGs 5点未満の群では75.2%、SOGs 5点以上の群では67.3%であり、SOGs 5点以上の者でインターネットギャンブルの利用経験がある者が多かった。

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和2年1月時点と比較し、インターネットを使ったギャンブルを「する機会が増えた」との回答は、SOGs 5点未満では2.2%で、SOGs 5点以上では7.3%で有意に高かった。一方、「する機会が減った」と回答した割合もSOGs 5点以上で有意に高かった。
 $(\chi^2(4)=23.114, p<.01)$ （図表2-58）

図表2-58 コロナ禍におけるインターネットを使ったギャンブル【SOGs得点区分比較】

SOGs 得点区分	インターネットギャンブル利用の変化					総計
	新たに 始めた (ns)	する機会が 増えた **	する機会が 減った *	する機会に 変化はない (ns)	したことが ない *	
5点未満	48 (2.0%)	51 (2.2%)	64 (2.7%)	418 (17.8%)	1,764 (75.2%)	2,345 (100.0%)
5点以上	3 (1.8%)	12 (7.3%)	10 (6.1%)	29 (17.6%)	111 (67.3%)	165 (100.0%)
SOGs 集計全体	51 (0.9%)	63 (2.5%)	74 (2.9%)	447 (17.8%)	1,875 (74.7%)	2,510 (100.0%)

※集計から除外：問50で無回答・無効回答（n = 11）

※残差分析の結果 * $p<.05$ ** $p<.01$, ns: 有意差なし

第3章 ギャンブル問題で相談機関や自助グループを利用する者の実態調査（調査B）

3.1 調査目的

ギャンブルを含む依存の問題のために、相談機関や自助グループを利用する者（当事者とその家族）の特徴、ギャンブル関連問題（多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪）の実態把握を目的として調査を実施した。

3.2 調査方法

（1）調査対象施設の抽出

依存症の相談支援を担う公的機関として、日本全国 of 精神保健福祉センター（69 か所）と、都道府県が所掌する依存症相談拠点となっている保健所（9 都道府県, 84 か所）を抽出し、調査の依頼を行った。

（2）調査対象

本調査では、当事者向けの A 票と家族向けの B 票、2 種類の自記式アンケート調査を実施した。

A 票（当事者回答）は、ギャンブル問題を含む依存の問題で公的相談機関に来所した当事者および、ギャンブル依存の自助グループ（ギャンブラーズ・アノニマス（以下、GA））などに参加する有志（以下、自助グループ有志）を対象とした。

B 票（家族回答）は、ギャンブル問題を含む依存の問題で公的相談機関に来所した家族および、ギャンブル問題を抱える家族向けの自助グループ（ギャンマノンなど）に参加する有志（以下、家族向け自助グループ有志）とした。

（3）調査回答期間

令和2年11月30日～令和3年2月4日

（4）調査票名と調査内容

- ・調査票名：「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」
- ・調査内容

① A 票：当事者向け（自助グループ有志兼用）

- ・基本属性、背景情報（性別、年齢、婚姻状況、同居者、職業、年収等）
- ・依存問題の種類、相談にきた経緯、抑うつ気分尺度（K6）
- ・ギャンブル行動（過去1年ギャンブル経験の有無、ギャンブルの種類、頻度、使う金額等）
- ・ギャンブル障害のスクリーニングテスト（PGSI, NODS-CLIP）
- ・ギャンブル関連問題（多重債務、養育困難の有無、小児期逆境体験、希死念慮・自殺企図の有無、触法行為の有無）
- ・クロスアディクション（アルコール使用障害のスクリーニングテスト（AUDIT-C）、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト（IGDT-10）
- ・治療機関や自助グループ、回復支援施設、その他相談機関の利用経験に関する質問、行政への要望

② B票：家族向け（家族向け自助グループ有志兼用）

＜さまざまな依存の問題を抱える当事者のご家族共通の質問＞

- ・相談に来た経緯，性別，年齢，婚姻状況，同居者，職業，年収，抑うつ気分尺度（K6），希死念慮・自殺企図の有無，養育困難の有無，小児期逆境体験の有無，依存問題の相談経験の有無，行政への要望，自助グループ・家族会等の利用経験の有無等
- ・当事者との関係，当事者の依存問題の種類，当事者の生活支援制度利用の有無，当事者の触法行為を含む問題行為の有無等

＜ギャンブル問題を抱える当事者のご家族への質問＞

- ・問題となっているギャンブルの種類，家族がギャンブル問題から受けた影響，借金（立て替え経験）の有無，ギャンブルの停止状況等

（5）配布・回答・回収方法

配布方法は，日本全国の子精神保健福祉センター（69 か所）と，都道府県が所掌する依存症相談拠点となっている保健所（9 都道府県，84 か所）に対して，調査説明文書一式と調査票セット（回答案内，調査票，返送用封筒）15 部を送付した。調査票は，各施設において依存症の相談支援を担当する職員より，対象者へと配布した。

なお，回答・回収方法は，2 形式から調査対象者が任意に選択できる形式とした。

- ①同封された紙の調査票に回答して返送用封筒にて返送する形式（以下，郵送回答という。）
 - ②回答案内に記載の URL から，インターネット経由で Web 回答する形式（以下，Web 回答という。）
- また，一部の自助グループ有志には回答案内を電子メールで送付し，Web 回答を依頼した。

（6）分析方法

A 票（当事者），B 票（家族）ともに，対象者が調査票を受け取った場所によって，大きく「公的相談機関に來所した対象者」と「自助グループ有志」に分けて解析した。さらに，公的相談機関に來所した当事者と家族については，当事者の抱える依存問題の種類によってグループに分けて集計した（群分け集計結果は「3.5 有効票の概要」を参照）。グループの比較には， χ^2 検定を用いた。 χ^2 検定にて有意差を認めた項目には，残差分析を適用し，どの比較に差が見られたかを検証した。有意水準は，5%，1%とした。

3.3 回収結果

A 票の総回収数は，377 通であった。内訳は，公的相談機関に來所した者は 114 通（郵送 102 通，Web12 通），自助グループ有志は 181 通（郵送 45 通，Web136 通），調査票を受け取った場所が不明の者は 82 通（郵送 7 通，Web75 通）であった。

B 票の総回収数は 643 通であった。内訳は，公的相談機関に來所した者は 134 通（郵送 117 通，Web17 通），自助グループ有志は 409 通（郵送 54 通，Web355 通），調査票を受け取った場所が不明の者は 110 通（郵送 10 通，Web100 通）であった。

3.4 データクレンジング基準の概要

（1）有効票の基準

A 票：問7（調査票を受け取った場所）を必須回答項目とし、回答しなかった者（ $n=82$ ）は集計から除いた。また、問7の回答により自助グループ有志に区分されるもののうち、問8（問題となっている依存の種類）で「ギャンブルの問題」を選択していないもの（ $n=16$ ）は有効回答から除外した。

B 票：問8（調査票を受け取った場所）を必須回答項目とし、回答しなかった者（ $n=110$ ）は集計から除いた。また、問8の回答により家族向け自助グループ有志に区分されるもののうち、問10（当事者が抱えている問題）で「ギャンブルの問題」を選択していないもの（ $n=28$ ）は有効回答から除外した。

（2）回答ミスの取り扱い

ア 単一選択設問に複数選択している場合

調査（A）と同様、単一選択すべき設問に、複数選択している場合は、原則不適切回答として該当設問の集計に含めていない。

一部、設問によって単一選択と判断できるものは、集計対象に含めている。

- ・例1：「答えたくない」とそれ以外の選択肢を選択している場合、それ以外の選択肢を優先
- ・例2：問4で「一人暮らし」とそれ以外の選択肢を選択している場合、「一人暮らし」を優先

イ 自由回答（数値）における異常値

年齢や金額等について、選択肢ではなく数値を回答する設問では、論理的に説明がつかない数値、社会常識から想定されない数値等の場合は異常値とみなし該当設問の集計に含めていない。

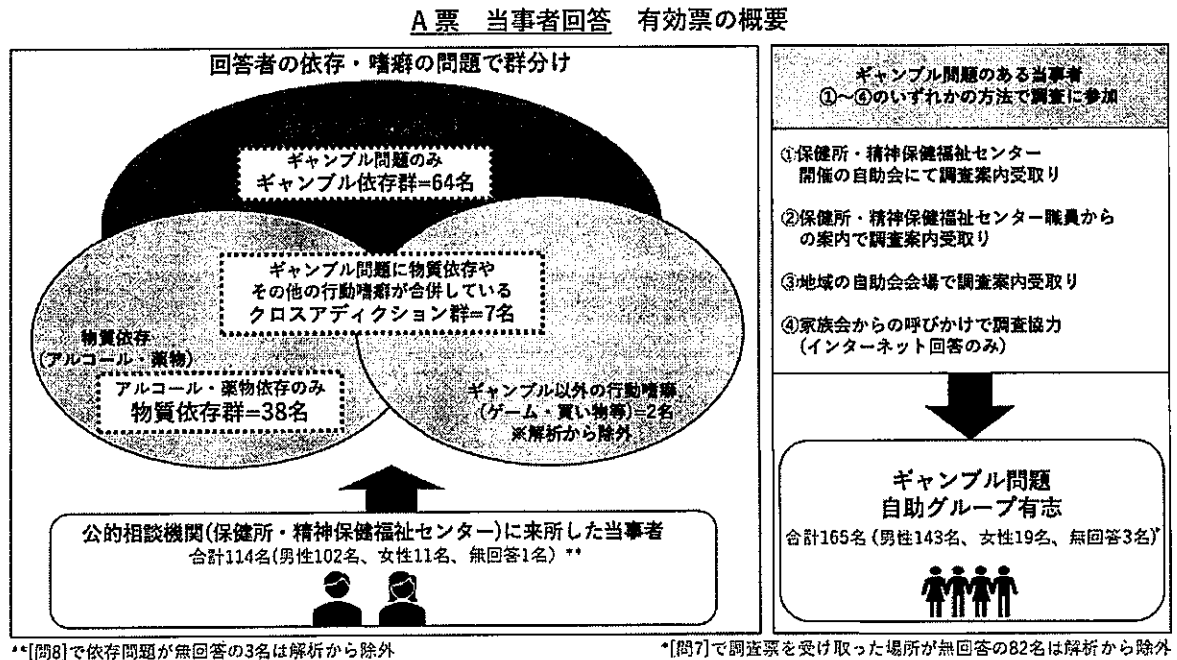
ウ 設問間の矛盾

設問間の矛盾回答は、個別に下記のいずれかの処理を実施した。

- ・不適切回答として該当設問の集計対象に含めない。
- ・どちらかの設問を正とし、もう片方の設問を訂正して集計する。

3.5 有効票の概要

（1）A票 当事者回答：有効票の概要



【A票：問7】（調査票を受け取った場所）の回答より、精神保健福祉センターおよび保健所経由で調査票を受け取ったと回答しているものを「公的相談機関」、GAの会場または、精神保健福祉センターで開催のGAで受け取ったと回答しているものを「自助グループ有志」として、2つのグループに分けてそれぞれ集計した。

【A票：問7】の集計結果より、公的相談機関に来所した者は114名、自助グループ有志は165名で、合計279名の回答を解析対象とした。（図表3-1）

【A票：問7】 この調査票は、どこでもらいましたか。（単一選択）

図表 3-1 当事者－調査票を受け取った場所（選択肢別）

	公的相談機関	自助グループ有志
精神保健福祉センターに相談に行ったとき	110 (96.5%)	0 (0.0%)
保健所に相談に行ったとき	4 (3.5%)	0 (0.0%)
GA（ギャンブラーズ・アノニマス）の会場	0 (0.0%)	151 (91.5%)
精神保健福祉センターで開催のGAに参加したとき	0 (0.0%)	14 (8.5%)
全体	114 (100.0%)	165 (100.0%)

さらに、公的相談機関に來所した者は、問8で尋ねた依存問題の種類別（図表3-2）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。なお、各群の定義については図表3-3に示した。

【A票：問8】「問7」で答えた場所を利用することになった依存の問題は次のどれですか。
（複数選択）

図表3-2 当事者－依存・嗜癖問題の種類

依存・嗜癖問題の種類	公的相談機関 (n=114)	自助グループ有志 (n=165)
ギャンブルの問題	71 (62.3%)	165 (100.0%)
アルコールの問題	20 (17.5%)	6 (3.6%)
薬物の問題	25 (21.9%)	4 (2.4%)
ゲームの問題	4 (3.5%)	4 (2.4%)
買い物の問題	2 (1.8%)	4 (2.4%)
盗癖	1 (0.9%)	8 (4.8%)
その他	0 (0.0%)	2 (1.2%)

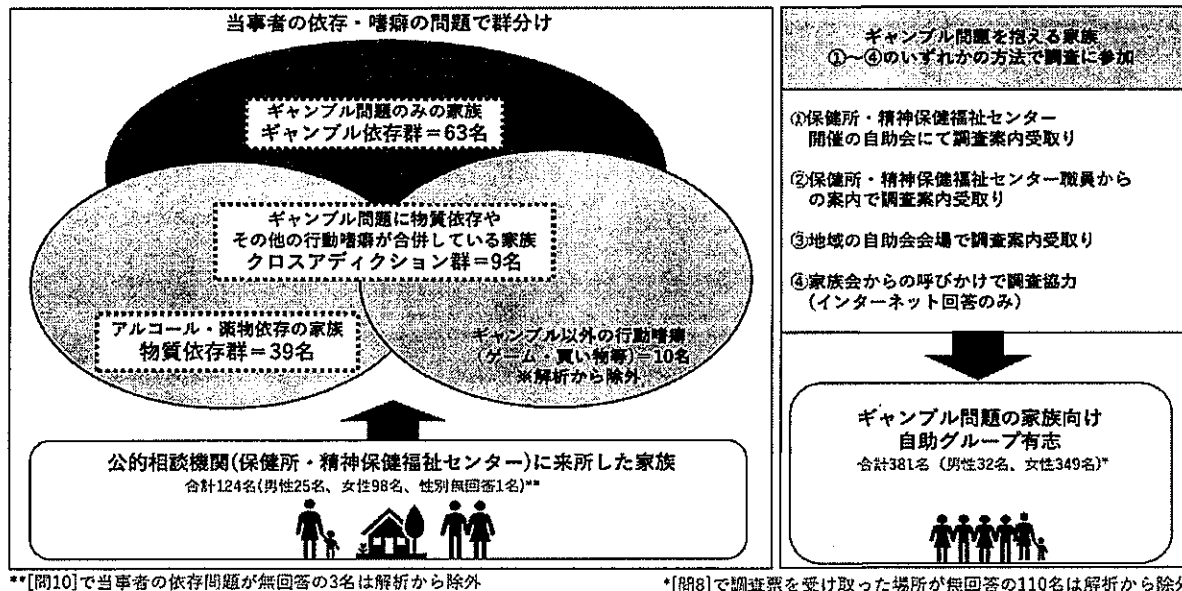


図表3-3 当事者－依存・嗜癖問題の種類別の群分け：各群の定義

グループ名	定義
①ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える当事者
②物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える当事者
③クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題に加えて、物質依存（アルコール・薬物）、あるいはその他（ゲーム、買い物、盗癖など）による行動嗜癖の問題を合併している当事者

(2) B票 家族回答：有効票の概要

B票 家族回答 有効票の概要



**[問10]で当事者の依存問題が無回答の3名は解析から除外

*[問8]で調査票を受け取った場所が無回答の110名は解析から除外

【B票：問8】（調査票を受け取った場所）の回答より、精神保健福祉センターおよび保健所経由で調査票を受け取ったと回答している回答者を「公的相談機関」、ギャマノンの会場または、精神保健福祉センターで開催のギャマノンで受け取ったと回答している回答者を「家族向け自助グループ有志」として2つのグループに分けてそれぞれ集計した。

【B票：問8】の集計結果より、公的相談機関は124名、家族向け自助グループ有志は381名で、合計505名の回答を解析対象とした。（図表3-4）

【B票：問8】 この調査票は、どこでもらいましたか。（単一選択）

図表 3-4 家族－調査票を受け取った場所（選択肢別）

	公的相談機関	家族向け自助グループ有志
精神保健福祉センターに相談に行ったとき	116 (93.5%)	0 (0.0%)
保健所に相談に行ったとき	8 (6.5%)	0 (0.0%)
ギャマノン (GAM-ANON) の会場	0 (0.0%)	360 (94.5%)
精神保健福祉センターで開催のギャマノンに参加したとき	0 (0.0%)	21 (5.5%)
全体	124 (100.0%)	381 (100.0%)

さらに、公的相談機関に来所した家族は、【B票：問10】で尋ねた当事者の依存問題の種類別（図表3-5）の結果に基づき、「①ギャンブル依存群」「②物質依存群」「③クロスアディクション群」に分け、群間比較を行った。なお、各群の定義については図表3-6に示した。

【B票：問10】 あなたのご家族（依存の問題がある当事者）が抱えている問題は、次のどれですか。あてはまる全ての番号に○をつけてください。（複数選択）

図表 3-5 家族－依存・嗜癖問題の種類

依存の種類	公的相談機関 (n=124)	家族向け自助グループ有志 (n=381)
ギャンブルの問題	72 (58.1%)	381 (100.0%)
アルコールの問題	26 (21.0%)	11 (2.9%)
薬物の問題	27 (21.8%)	26 (6.8%)
ゲームの問題	3 (2.4%)	22 (5.8%)
買い物の問題	2 (1.6%)	18 (4.7%)
盗癖	6 (4.8%)	21 (5.5%)
その他	8 (6.5%)	18 (4.7%)



図表 3-6 家族－依存・嗜癖問題の種類別の群分け：各群の定義

グループ名	定義
①ギャンブル依存群	ギャンブル依存の問題を抱える家族
②物質依存群	アルコールまたは薬物依存の問題を抱える家族
③クロスアディクション群	ギャンブル依存の問題に加えて、物質依存（アルコール・薬物）、あるいはその他（ゲーム、買い物、盗癖など）の行動嗜癖による問題を合併している家族

3.6 【A票】当事者回答の結果

本項では、調査票「さまざまな依存症におけるギャンブル問題の実態調査」A票（依存問題のある当事者向け）の回答結果を設問項目の領域ごとにまとめて提示する。なお「公的相談機関」に来訪した者と、「ギャンブル問題自助グループ有志」は、グループごとに解析しているため、図表では、2つのグループの集計結果を並列して示す。

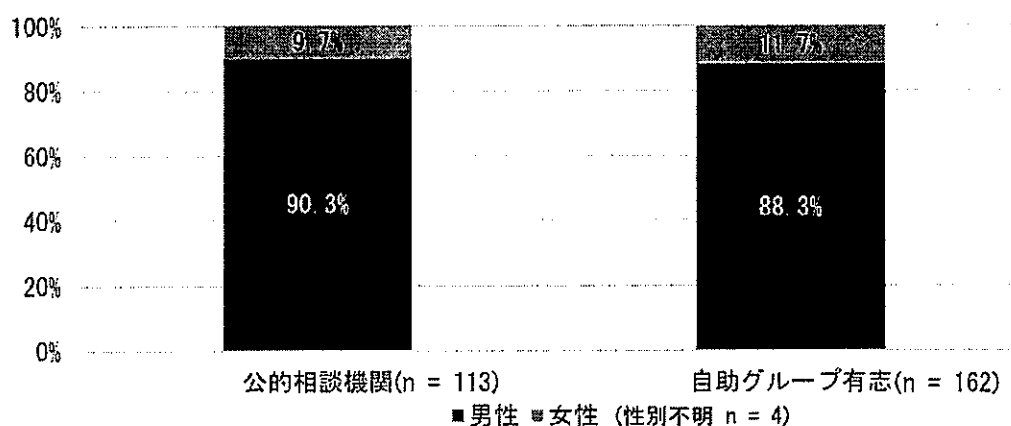
3.6.1 対象者の基本属性

（1）年齢・性別（当事者）

【A票：問1】 あなたの性別を教えてください。（単一選択）

公的相談機関について、男性が102名（90.3%）、女性が11名（9.7%）であった。自助グループ有志について、男性が143名（88.3%）、女性が19名（11.7%）であった。（図表3-7）

図表3-7 当事者－調査票を受け取った場所別，性別



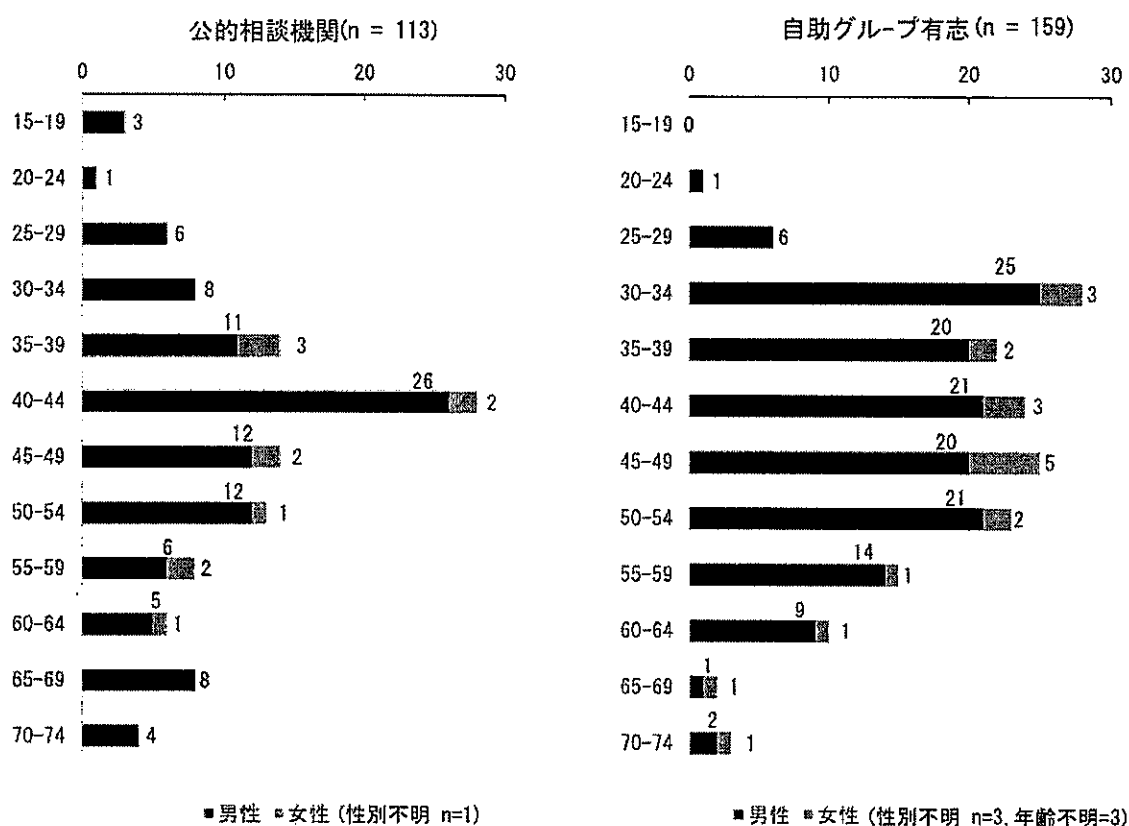
※欠損数：公的相談機関 = 1, 自助グループ有志 = 3

【A票：問2】 あなたの年齢を教えてください。（数値記述）

公的相談機関について、男性の平均年齢は45.5歳（標準偏差12.8歳）、女性の平均年齢は46.4歳（標準偏差9.2歳）であった。また、最も回答数が多かったのは男性が40-44歳、女性は35-39歳であった。

自助グループ有志について、男性の平均年齢は44.5歳（標準偏差10.8歳）、女性の平均年齢は47.0歳（標準偏差11.2歳）であった。また、最も回答数が多かったのは男性が30-34歳、女性は45-49歳であった。（図表3-8）

図表3-8 当事者－調査票を受け取った場所別、年齢区分・性別



※欠損数：公的相談機関 =1, 自助グループ有志 =6

(2) 婚姻状況・同居家族（当事者）

【A票：問3】 あなたは現在、結婚されていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「結婚している」が最も割合が高く、次いで、「未婚（結婚したことがない）」、「離婚した」の順で割合が高かった。（図表3-9）

図表3-9 当事者－調査票を受け取った場所別、婚姻歴

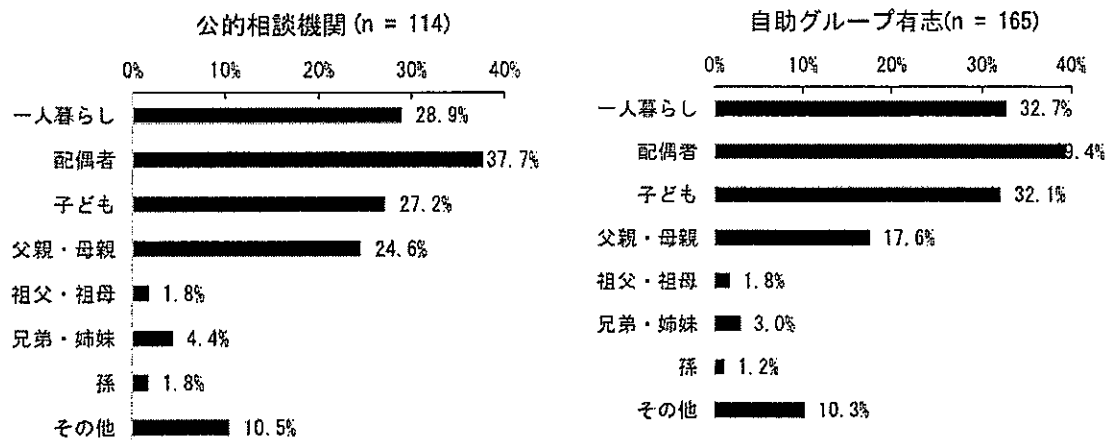
	公的相談機関	自助グループ有志
結婚している	45 (39.8%)	75 (45.5%)
内縁関係（配偶者のような関係）	4 (3.5%)	2 (1.2%)
死別した	1 (0.9%)	4 (2.4%)
離婚した	29 (25.7%)	28 (17.0%)
未婚（結婚したことがない）	33 (29.2%)	54 (32.7%)
別居中	1 (0.9%)	2 (1.2%)
全体	113 (100.0%)	165 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=1，自助グループ有志=0

【A票：問4】 あなたは現在、だれと住んでいますか。（複数選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「配偶者」と同居している割合が最も高く、次いで、「一人暮らし」「子ども」との同居の順で割合が高かった。（図表3-10）

図表3-10 当事者－調査票を受け取った場所別、同居者



（3）職業・年収（当事者）

【A票：問5】現在のあなたの職業を教えてください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「勤め（正社員・正職員）」が最も割合が高かった。無職（求職中、失業中、進路未定を含む）と回答した割合は、自助グループ有志（9.8％）に比べ、公的相談機関（20.2％）の方が高かった。（図表 3-11）

図表 3-11 当事者－調査票を受け取った場所別、職業

	公的相談機関	自助グループ有志
自営・自由業者・経営者（家族従業を含む）	4 (3.5%)	10 (6.1%)
勤め（正社員・正職員）	54 (47.4%)	98 (59.8%)
勤め（契約・派遣・嘱託・パート・アルバイト）	22 (19.3%)	25 (15.2%)
学生	1 (0.9%)	3 (1.8%)
家事専業（専業主婦・専業主夫）	2 (1.8%)	2 (1.2%)
無職（求職中、失業中、進路未定を含む）	23 (20.2%)	16 (9.8%)
無職（退職者、今後就業予定のない者）	6 (5.3%)	5 (3.0%)
その他	2 (1.8%)	5 (3.0%)
全体	114 (100.0%)	164 (100.0%)

※欠損数：自助グループ有志 = 1

【A票：問6】あなたの年収（税込み）は、だいたいどのくらいですか。年金などを受けている場合やアルバイト収入がある場合は、その額も含んだ合計額でお答えください。（単一選択）

公的相談機関は、「300 万円以上～400 万円未満」の割合が最も高かった。自助グループ有志は、「400 万円以上～600 万円未満」の割合が最も高かった。（図表 3-12）

図表 3-12 当事者－調査票を受け取った場所別、年収

	公的相談機関	自助グループ有志
収入なし	8 (7.3%)	7 (4.8%)
1 円以上～100 万円未満	14 (12.8%)	6 (4.1%)
100 万円以上～200 万円未満	19 (17.4%)	14 (9.5%)
200 万円以上～300 万円未満	17 (15.6%)	21 (14.3%)
300 万円以上～400 万円未満	24 (22.0%)	28 (19.0%)
400 万円以上～600 万円未満	18 (16.5%)	31 (21.1%)
600 万円以上～800 万円未満	7 (6.4%)	22 (15.0%)
800 万円以上～1,000 万円未満	1 (0.9%)	11 (7.5%)
1,000 万円以上～1,200 万円未満	1 (0.9%)	6 (4.1%)
1,200 万円以上～1,500 万円未満	0 (0.0%)	0 (0.0%)
1,500 万円以上	0 (0.0%)	1 (0.7%)
総計	109 (100.0%)	147 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 = 5, 自助グループ有志 = 18

3.6.2 相談支援や国の制度の利用状況・行政に求める支援

（1）公的相談機関や自助グループを利用したきっかけ（当事者）

【A票：問9】 【問7】で答えた場所を利用することになったきっかけについて教えてください。
（複数選択）

公的相談機関の利用者は、「家族にすすめられた」の割合が最も高く、次いで、「自分からホームページなどで探した」、「友人、知人にすすめられた」の割合が高かった。

自助グループ有志は、「家族にすすめられた」の割合が最も高く、次いで、「医療機関ですすめられた」、「自分からホームページなどで探した」の割合が高かった。（図表3-13）

図表3-13 当事者－利用のきっかけ

利用のきっかけ	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
友人、知人にすすめられた	12 (11.8%)	1 (9.1%)	13 (11.5%)	10 (7.0%)	5 (26.3%)	15 (9.3%)
家族にすすめられた	43 (42.2%)	3 (27.3%)	46 (40.7%)	70 (49.0%)	1 (5.3%)	71 (43.8%)
医療機関ですすめられた	8 (7.8%)	3 (27.3%)	11 (9.7%)	45 (31.5%)	3 (15.8%)	48 (29.6%)
法律や司法の専門家に すすめられた	11 (10.8%)	1 (9.1%)	12 (10.6%)	8 (5.6%)	1 (5.3%)	9 (5.6%)
自分からホームページなどで 探した	23 (22.5%)	2 (18.2%)	25 (22.1%)	35 (24.5%)	10 (52.6%)	45 (27.8%)
その他	12 (11.8%)	1 (9.1%)	13 (11.5%)	12 (8.4%)	2 (10.5%)	14 (8.6%)

※欠損数：公的相談機関=1, 自助グループ有志=3

（2）相談支援機関の利用状況（当事者）

【A票：問10】 あなたはこれまでに、依存の問題で以下のところに相談や援助を求めたことがありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

公的相談機関は、全体では「病院やクリニックの受診」の割合が最も高く、次いで、「自助グループ」、「公的な相談機関（市区町村や精神保健福祉センター、保健所等）」の割合が高かった。

自助グループ有志は、全体では「自助グループ」の割合が最も高く、次いで、「病院やクリニックの受診」、「法律の専門家（弁護士、司法書士等）」の割合が高かった。（図表3-14）

図表3-14 当事者－依存の問題で相談援助を求めた経験

相談先	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
法律の専門家 (弁護士、司法書士等)	12 (11.8%)	3 (27.3%)	15 (13.3%)	48 (33.6%)	1 (5.3%)	49 (30.2%)
病院やクリニックの受診	49 (48.0%)	7 (63.6%)	56 (49.6%)	85 (59.4%)	9 (47.4%)	94 (58.0%)
公的な相談機関（市区町村や精神 保健福祉センター、保健所等）	35 (34.3%)	4 (36.4%)	39 (34.5%)	25 (17.5%)	8 (42.1%)	33 (20.4%)
民間の相談機関 (無料電話相談、回復施設)	20 (19.6%)	2 (18.2%)	22 (19.5%)	37 (25.9%)	2 (10.5%)	39 (24.1%)
自助グループ	42 (41.2%)	5 (45.5%)	47 (41.6%)	109 (76.2%)	13 (68.4%)	122 (75.3%)
警察	5 (4.9%)	0 (0.0%)	5 (4.4%)	1 (0.7%)	1 (5.3%)	2 (1.2%)
その他	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)
あてはまるものはない	20 (19.6%)	2 (2%)	22 (21.6%)	9 (6.3%)	1 (0.7%)	10 (7.0%)

※欠損数：公的相談機関=1, 自助グループ有志=3

（３）経済的な支援制度の利用状況（当事者）

【A票：問11】 あなたはこれまでに次の制度を利用したことがありますか。（単一選択）

生活保護を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性 21.1％、女性 37.5％であった。自助グループ有志は、男性 13.6％、女性 33.3％であった。（図表 3-15）

債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）を利用したことがあるとの回答割合は、公的相談機関は、男性 37.1％、女性 55.6％であった。自助グループ有志は、男性では 54.6％、女性では 33.3％であった。（図表 3-16）

図表 3-15 当事者－生活保護の利用

生活保護の利用有無	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	19 (21.1%)	3 (37.5%)	22 (22.4%)	19 (13.6%)	6 (33.3%)	25 (15.8%)
利用したことがない	71 (78.9%)	5 (62.5%)	76 (77.6%)	121 (86.4%)	12 (66.7%)	133 (84.2%)
全体	90 (100.0%)	8 (100.0%)	98 (100.0%)	140 (100.0%)	18 (100.0%)	158 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =15, 自助グループ有志 =4

図表 3-16 当事者－債務整理（自己破産・個人再生・任意整理等）の利用

債務整理の利用有無	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体
利用したことがある	36 (37.1%)	5 (55.6%)	41 (38.7%)	77 (54.6%)	6 (33.3%)	83 (52.2%)
利用したことがない	61 (62.9%)	4 (44.4%)	65 (61.3%)	64 (45.4%)	12 (66.7%)	76 (47.8%)
全体	97 (100.0%)	9 (100.0%)	106 (100.0%)	141 (100.0%)	18 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関 =7, 自助グループ有志 =3

（４）行政に求める支援（当事者）

【A票：問36】 行政により一層取り組んで欲しいことについて、該当するものすべてに○をつけてください。（複数選択）

行政により一層取り組んで欲しいことについては、公的相談機関は、「依存症の治療ができる医療機関を増やす」の割合が最も高かった。自助グループ有志は「依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発」の割合が最も高かった。（図表 3-17）

図表 3-17 当事者－行政に対する要望

行政に対する要望	公的相談機関			自助グループ有志		
	男性 (n=102)	女性 (n=11)	全体 (n=113)	男性 (n=143)	女性 (n=19)	全体 (n=162)
依存症に関する正しい知識や理解の普及啓発	50 (49%)	7 (63.6%)	57 (50.4%)	110 (76.9%)	12 (63.2%)	122 (75.3%)
依存症に関する相談窓口の周知・拡大	53 (52%)	4 (36.4%)	57 (50.4%)	94 (65.7%)	12 (63.2%)	106 (65.4%)
依存症の治療ができる医療機関を増やす	55 (53.9%)	5 (45.5%)	60 (53.1%)	61 (42.7%)	11 (57.9%)	72 (44.4%)
自助グループや民間団体への支援・連携の強化	44 (43.1%)	5 (45.5%)	49 (43.4%)	104 (72.7%)	16 (84.2%)	120 (74.1%)
その他	3 (2.9%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	5 (3.5%)	0 (0.0%)	5 (3.1%)
特になし	1 (1.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	3 (2.1%)	1 (5.3%)	4 (2.5%)

※欠損数：公的相談機関 =1, 自助グループ有志 =3

3.6.3 公的相談機関および自助グループを利用する者のギャンブル問題

ここでは、公的相談機関の利用者のうち、ギャンブル問題を抱えている者（【A票：問8】で、依存の対象を「ギャンブル問題」と回答した者）を抽出し、過去1年のギャンブル経験、ギャンブルの種類や頻度、ギャンブルに費やす金額、ギャンブルをするようになった経緯、ギャンブル障害のスクリーニングテスト等に関する質問の回答結果を示す。

同様に、自助グループ有志のうち、【A票：問8】で、依存の対象を「ギャンブル問題」と回答した者を抽出し、ギャンブル問題に関する項目の集計を行った。

以下、公的相談機関と自助グループ有志における、「ギャンブル問題」に関する集計結果を併記して示す。

（1）過去1年のギャンブル経験とギャンブルの種類

公的相談機関の利用者のうち、【A票：問8】で「ギャンブルの問題」と回答した者は71名で、そのうち過去1年ギャンブル経験の有る者は50名であった。過去1年間で経験したギャンブルの種類は、割合が高い順に、パチンコ（52.2%）、パチスロ（50.7%）、宝くじ（27.5%）であった。また、19名（依存の対象がギャンブル問題と回答した者の27.5%）は「過去1年間ギャンブルをしていない」と回答した。（図表3-18）

自助グループ有志のうち、【A票：問8】で「ギャンブルの問題」と回答した者は165名で、そのうち過去1年ギャンブル経験の有る者は70名であった。過去1年間で経験したギャンブルの種類は、割合が高い順に、パチンコ（26.3%）、パチスロ（23.1%）、競馬（11.3%）であった。また、90名（依存の対象がギャンブル問題と回答した者の56.3%）は「過去1年間ギャンブルをしていない」と回答した。（図表3-18）

【A票：問15】 あなたは過去1年間にギャンブルをしましたか。この調査でギャンブルとは、下表の（ア）～（シ）のことです。過去1年間に経験したものの全ての番号に○をつけてください。（複数選択）

図表3-18 当事者－過去1年間に経験したギャンブル

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関 (n=69)	自助グループ有志 (n=160)
（ア）パチンコ	36 (52.2%)	42 (26.3%)
（イ）パチスロ	35 (50.7%)	37 (23.1%)
（ウ）競馬	17 (24.6%)	18 (11.3%)
（エ）競輪	11 (15.9%)	6 (3.8%)
（オ）競艇	10 (14.5%)	9 (5.6%)
（カ）オートレース	4 (5.8%)	2 (1.3%)
（キ）宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	19 (27.5%)	14 (8.8%)
（ク）サッカーくじ	7 (10.1%)	2 (1.3%)
（ケ）証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	6 (8.7%)	7 (4.4%)
（コ）インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）	9 (13.0%)	8 (5.0%)
（サ）海外のカジノ	2 (2.9%)	2 (1.3%)
（シ）その他のギャンブル	2 (2.9%)	3 (1.9%)
（ス）過去1年間ギャンブルをしていない	19 (27.5%)	90 (56.3%)

※欠損数：公的相談機関 = 2, 自助グループ有志 = 5

※以下、(2)～(6)は「過去1年間にギャンブル経験のある者」を解析対象とした結果を示す。

(2) 過去1年のギャンブルの頻度・インターネットを使ったギャンブル

【A票：問16】 前の【問15】で○をつけたギャンブルについて、過去1年間はどのくらいの頻度で行いましたか。下表の「1：週1回未満，2：週1回以上」からあてはまる番号を1つ選んでください。（単一選択）

【問15】で過去1年間に（ア）～（シ）のいずれかのギャンブルを経験したと回答した者（過去1年間のギャンブル経験あり）を対象に、過去1年間のギャンブルの頻度を尋ねた。

公的相談機関は、週1回以上の割合が最も高いものは、パチスロ、次いでパチンコ、宝くじであった。

自助グループ有志は、週1回以上の割合が最も高いものは、パチンコ、次いでパチスロ、競馬であった。（図表3-19）

図表 3-19 当事者－過去1年間のギャンブル頻度

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関※ (n=50)			自助グループ有志※ (n=70)		
	週1回未満	週1回以上	合計	週1回未満	週1回以上	合計
(ア) パチンコ	9 (18.0%)	24 (48.0%)	33	9 (12.9%)	32 (45.7%)	41
(イ) パチスロ	6 (12.0%)	28 (56.0%)	34	12 (17.1%)	25 (35.7%)	37
(ウ) 競馬	9 (18.0%)	6 (12.0%)	15	4 (5.7%)	14 (20.0%)	18
(エ) 競輪	5 (10.0%)	5 (10.0%)	10	0 (0.0%)	6 (8.6%)	6
(オ) 競艇	3 (6.0%)	5 (10.0%)	8	3 (4.3%)	6 (8.6%)	9
(カ) オートレース	2 (4.0%)	1 (2.0%)	3	0 (0.0%)	2 (2.9%)	2
(キ) 宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	8 (16.0%)	8 (16.0%)	16	11 (15.7%)	3 (4.3%)	14
(ク) サッカーくじ	5 (10.0%)	0 (0.0%)	5	2 (2.9%)	0 (0.0%)	2
(ケ) 証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	3 (6.0%)	1 (2.0%)	4	4 (5.7%)	3 (4.3%)	7
(コ) インターネットを使ったギャンブル （競馬、競輪、競艇、オートレースを除く）	3 (6.0%)	5 (10.0%)	8	1 (1.4%)	6 (8.6%)	7
(サ) 海外のカジノ	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1	0 (0.0%)	2 (2.9%)	2
(シ) その他のギャンブル	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1	1 (1.4%)	2 (2.9%)	3

※【A票：問15】で「(ス) 過去1年間ギャンブルをしていない」を選択した者を除く、公的相談機関（n=50）、自助グループ有志（n=70）に占める割合

【A票：問17】 【問15】で（3）競馬，（4）競輪，（5）競艇，（6）オートレースのいずれかに○をつけた人にお尋ねします。主にどこで券を購入しますか。競技ごとに、あてはまる番号を1つお選びください。（単一選択）

問15にて過去1年間に競馬，競輪，競艇，オートレースの経験ありと答えた者を対象として集計した。

公的相談機関と自助グループ有志ともに、公営競技の主な券の購入場所として、競馬，競輪，競艇，オートレースの全てにおいて、インターネット購入を利用する者（「オンライン（インターネット）」と「ギャンブル場／場外とオンラインの両方」のいずれかを選択した者）の割合が高かった。（図表3-20）

図表3-20 当事者－公営競技：主な券の購入場所

	公的相談機関				自助グループ有志			
	ギャンブル場、または、場外売り場	オンライン（インターネット）	ギャンブル場／場外とオンラインの両方	全体	ギャンブル場、または、場外売り場	オンライン（インターネット）	ギャンブル場／場外とオンラインの両方	全体
競馬	2(12.5%)	11(68.8%)	3(18.8%)	16(100.0%)	2(11.1%)	12(66.7%)	4(22.2%)	18(100.0%)
競輪	2(20.0%)	7(70.0%)	1(10.0%)	10(100.0%)	0(0.0%)	6(100.0%)	0(0.0%)	6(100.0%)
競艇	2(22.2%)	3(33.3%)	4(44.4%)	9(100.0%)	1(11.1%)	5(55.6%)	3(33.3%)	9(100.0%)
オートレース	1(33.3%)	1(33.3%)	1(33.3%)	3(100.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)

※欠損数：公的相談機関（競馬＝1，競輪＝1，競艇＝1，オートレース＝1）

（3）過去1年ギャンブルに使ったお金

【A票：問18】 過去1年間、あなたが最もお金を使ったギャンブルはどれですか。1～13からあてはまる番号を一つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関の利用者と自助グループ有志ともに、過去1年間に最もお金を使ったギャンブルの種類は、パチスロが最多、次いでパチンコ、競馬であった。（図表3-21）

図表3-21 当事者－最もお金を使ったギャンブル

過去1年間で経験したギャンブル	公的相談機関 (n=45)	自助グループ有志 (n=68)
パチンコ	11 (24.4%)	16 (23.5%)
パチスロ	17 (37.8%)	22 (32.4%)
競馬	8 (17.8%)	14 (20.6%)
競輪	2 (4.4%)	1 (1.5%)
競艇	4 (8.9%)	5 (7.4%)
オートレース	0 (0.0%)	0 (0.0%)
宝くじ（ロト・ナンバーズ等も含む）	1 (2.2%)	2 (2.9%)
サッカーくじ	1 (2.2%)	0 (0.0%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX ※仕事などの業務で行うものは除く	0 (0.0%)	2 (2.9%)
インターネットを使ったギャンブル (競馬，競輪，競艇，オートレースを除く)	0 (0.0%)	1 (1.5%)
海外のカジノ	0 (0.0%)	1 (1.5%)
その他のギャンブル	0 (0.0%)	3 (4.4%)
いずれのギャンブルもしたことがない	1 (2.2%)	1 (1.5%)
全体	45 (100.0%)	68 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関＝5，自助グループ有志＝2

【A票：問19】 過去1年間、1ヶ月あたりギャンブルにどのくらいお金をかけていますか。勝ったお金は含めずにお答えください。（数値記述）

公的相談機関について、1ヶ月あたりにギャンブルにかかる金額の平均値は298,854円、中央値は75,000円、範囲は0-7,000,000円、標準偏差は1,054,954円であった。（n=50）

自助グループ有志について、1ヶ月あたりにギャンブルにかかる金額の平均値は480,456円、中央値は100,000円、範囲は0-10,000,000円、標準偏差は1,418,693円であった。（n=64 欠損数6）

（4）ギャンブルに関連した借金

【A票：問20】 あなたは、これまでにギャンブルに関連して借金したことはありますか。また、その総額はいくらですか。（数値記述）

公的相談機関について、ギャンブルに関連した借金額の平均値は3,939,773円、中央値は3,000,000円、範囲は50,000-10,000,000円、標準偏差は2,848,798円であった。（n=44 欠損数6）

自助グループ有志について、ギャンブルに関連した借金額の平均値は7,503,237円、中央値は3,000,000円、範囲は100-80,000,000円、標準偏差は11,685,152円であった。（n=62 欠損数8）

（5）ギャンブルをするようになった経緯

【A票：問21】 初めてギャンブルをしたのは何歳の時でしたか。（数値記述）

公的相談機関について、初めてギャンブルをした年齢の平均値は21.0歳（男性20.6歳、女性25.8歳）、中央値は20.0歳、範囲は8.0-50.0歳、標準偏差は6.0歳であった。（n=49 欠損数1）

自助グループ有志について、初めてギャンブルをした年齢の平均値は20.2歳（男性20.2歳、女性20.7歳）、中央値は20.0歳、範囲は4.0-45.0歳、標準偏差は6.2歳であった。（n=67 欠損数3）

【A票：問22】 あなたが、初めてギャンブルをした時の状況に最も近いものを1つ選んでください。（単一選択）

公的相談機関と自助グループ有志ともに、「ギャンブルをする友人に誘われて」の割合が最も高かった。（図表3-22・図表3-23）

図表3-22 当事者－初めてギャンブルをした時の状況

	公的相談機関	自助グループ有志
自分一人で	13 (26.5%)	22 (31.9%)
ギャンブルをする友人に誘われて	24 (49.0%)	32 (46.4%)
ギャンブルをする親に誘われて	3 (6.1%)	7 (10.1%)
ギャンブルをする兄弟姉妹に誘われて	0 (0.0%)	1 (1.4%)
ギャンブルをする交際相手に誘われて	3 (6.1%)	3 (4.3%)
ギャンブルをする親・兄弟姉妹以外の親戚に誘われて	1 (2.0%)	1 (1.4%)
その他	5 (10.2%)	3 (4.3%)
あてはまるものはない	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	49 (100.0%)	69 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=1、自助グループ有志=1

図表 3-23 当事者－初めてギャンブルをした時の状況（その他内訳）

	公的相談機関	自助グループ有志
その他内訳	仕事の都合による、上司に誘われて、職場の上司に誘われて、会社のオーナーに連れていってもらった、夫・友人	上司か友人、店員に誘われて、学校の先輩

【A票：問23】 あなたが、少なくとも月1回以上の頻度で、習慣的にギャンブルをするようになったのは何歳でしたか。（数値記述）

公的相談機関について、習慣的にギャンブルをするようになった年齢の平均値は24.2歳（男性23.6歳、女性30.2歳）、中央値は22.0歳、範囲は18.0-29.0歳、標準偏差は7.7歳であった。（n=49 欠損数1）

自助グループ有志について、習慣的にギャンブルをするようになった年齢の平均値は23.7歳（男性23.7歳、女性23.9歳）、中央値は21.0歳、範囲は12.0-50.0歳、標準偏差は8.5歳であった。（n=65 欠損数5）

（6）ギャンブル障害のスクリーニングテスト

【A票：問27】 以下9つの質問について、過去1年間のあなたの状況に最もよくあてはまる番号を「0：全くない」～「3：ほとんどいつも」から1つ選んでください。（単一選択）（PGSI、ギャンブル問題のスクリーニングテスト）

公的相談機関について、PGSIが8点以上であったのは、全体で91.3%、男性では90.2%、女性では100.0%であった。

自助グループ有志について、PGSIが8点以上であったのは、全体で84.1%、男性では82.5%、女性では100.0%であった。（図表3-24）

図表 3-24 当事者－PGSI 得点

		公的相談機関			自助グループ有志		
		男性	女性	全体	男性	女性	全体
PGSI 得点	0－7点	4 (9.8%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	10 (17.5%)	0 (0.0%)	10 (15.9%)
	8点以上	37 (90.2%)	5 (100.0%)	42 (91.3%)	47 (82.5%)	6 (100.0%)	53 (84.1%)
	全体	41 (100.0%)	5 (100.0%)	46 (100.0%)	57 (100.0%)	6 (100.0%)	63 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=4、自助グループ有志=7

3.6.4 過去1年ギャンブルをしていない理由

【A票：問15】で過去1年ギャンブルをしていないと回答した者を対象に、ギャンブルをしていない理由および、最後にギャンブルをした時期について尋ねた。

【A票：問28】 過去1年間、ギャンブルをしていない理由は何ですか。あてはまるものの全てに○をしてください。（複数選択）

公的相談機関、自助グループ有志ともに「自助グループに通ってやめたから」と回答した割合が最も高かった。（図表3-25）

図表3-25 当事者－過去1年間ギャンブルをしていない理由

	公的相談機関 (n=19)	自助グループ有志 (n=90)
医療機関で治療を受けてやめたから	9 (47.3%)	20 (22.2%)
自助グループに通ってやめたから	14 (73.6%)	84 (93.3%)
特に理由はない	0 (0.0%)	4 (4.44%)
ギャンブル以外の楽しみをみつけたから	4 (21.0%)	33 (36.6%)
お金がないから	4 (21.0%)	10 (11.1%)
その他	4 (21.0%)	12 (13.3%)

【A票：問29】 あなたが最後にギャンブルをしたのはいつですか。（数値記述）

公的相談機関について、「2000年1月頃～2009年12月頃」「2010年1月頃～2014年12月頃」「2018年1月頃～2018年12月頃」「2019年1月頃～2019年12月頃」と回答した者が1名ずつ存在した。自助グループ有志について、「2010年1月頃～2014年12月頃」と回答した者の割合が最も高かった。なお、この項目は有効回答の31.2%（34件）が無回答であった。最後にギャンブルをした年月を記憶していない者が多かったと思われ解釈には留意が必要である。（図表3-26）

図表3-26 当事者－最後にギャンブルをした時期

	公的相談機関	自助グループ有志
2000年1月頃～2009年12月頃	1 (25.0%)	8 (11.3%)
2010年1月頃～2014年12月頃	1 (25.0%)	22 (31.0%)
2015年1月頃～2015年12月頃	0 (0.0%)	6 (8.5%)
2016年1月頃～2016年12月頃	0 (0.0%)	9 (12.7%)
2017年1月頃～2017年12月頃	0 (0.0%)	12 (16.9%)
2018年1月頃～2018年12月頃	1 (25.0%)	8 (11.3%)
2019年1月頃～2019年12月頃	1 (25.0%)	6 (8.5%)
全体	4 (100.0%)	71 (100.0%)

※欠損数：公的相談機関=15，自助グループ有志=19

3.6.5 ギャンブラーズ・アノニマスの利用状況

【A票：問40】 あなたはGA（ギャンブラーズ・アノニマス）を利用したことがありますか。
（単一選択）

公的相談機関は、GAの利用経験があると答えたのは、31人（50.0%）、GAの利用経験がないと答えたのは、31人（50.0%）であった。（n=62 欠損数9）

自助グループ有志は、GAの利用経験があると答えたのは、145人（98.0%）、GAの利用経験がないと答えたのは、3人（2.0%）であった。（n=148 欠損数17）

問41～43は、問40でGAの利用経験があると答えたものを対象に（公的相談機関：31名、自助グループ有志：145名）を対象に尋ねた結果を示す。

【A票：問41】 問題に気づいてからGAにつながるまで、どのくらいの期間がありましたか。
（数値記述）

公的相談機関について、GAにつながるまでにかかった期間の平均値は47.6ヶ月、中央値が6.0ヶ月、範囲は1.0-288.0ヶ月、標準偏差は77.6ヶ月であった。（n=29 欠損数2）

自助グループ有志について、GAにつながるまでにかかった期間の平均値は63.1ヶ月、中央値が36ヶ月、範囲は0-380ヶ月、標準偏差は78.8ヶ月であった。（n=132 欠損数13）

【A票：問42】 あなたがGAに通いはじめてどのくらいの期間になりますか。（数値記述）

公的相談機関について、GAに通っている期間は平均値が44.5ヶ月、中央値が24.0ヶ月、範囲は1.0-175.0ヶ月、標準偏差は47.1ヶ月であった。（n=27 欠損数4）

自助グループ有志について、GAに通っている期間は平均値が55.1ヶ月、中央値が42ヶ月、範囲は1.0-236ヶ月、標準偏差は52.3ヶ月であった。（n=135 欠損数10）

【A票：問43】 あなたがGAに参加して、良かったことに○をつけてください。（複数選択）

公的相談機関について、「自分ひとりじゃないと思えた」の割合が最も高く、次いで、「参加すると気持ちが軽くなる」、「同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった」の割合が高かった。

自助グループ有志について、「自分ひとりじゃないと思えた」の割合が最も高く、次いで、「参加すると気持ちが軽くなる」「同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった」の割合が同率で高かった。（図表3-27）

図表3-27 当事者-GAに参加してよかったこと

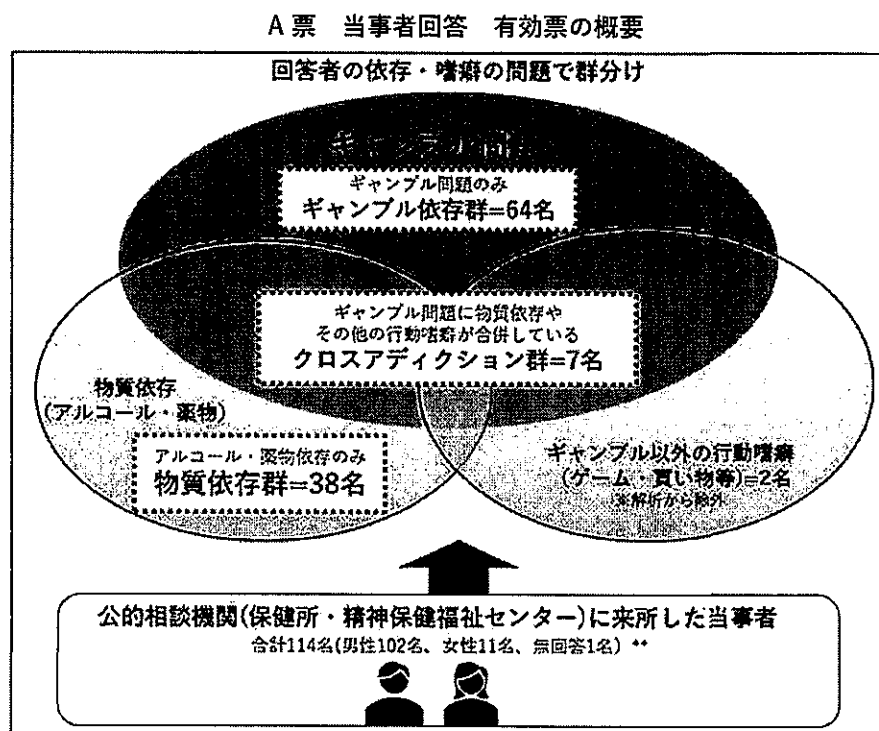
	公的相談機関 (n=31)	自助グループ有志 (n=145)
自分ひとりじゃないと思えた	23 (74.2%)	125 (86.2%)
回復するためのお手本となる人と出会った	12 (38.7%)	100 (69.0%)
相談する人ができた	13 (41.9%)	103 (71.0%)
依存することを止めたい気持ちが強くなった	14 (45.2%)	95 (65.5%)
自分も回復できると思えるようになった	14 (45.2%)	106 (73.1%)
同じ悩みを持つ仲間とのネットワークが広がった	16 (51.6%)	107 (73.8%)
参加すると気持ちが軽くなる	22 (71.0%)	107 (73.8%)
同じ悩みを持つ仲間の役に立てる	13 (41.9%)	80 (55.2%)
12ステップで生き方を変えられた	10 (32.3%)	71 (49.0%)
スポンサーシップが心強い	4 (12.9%)	47 (32.4%)
その他	0 (0.0%)	6 (4.1%)
特になし	1 (3.2%)	2 (1.4%)

※欠損数：公的相談機関=0、自助グループ有志=0

3.6.6 公的相談機関を利用する当事者における関連問題

公的相談機関に來所した当事者の依存問題の種類により、3つのグループ（ギャンブル依存群、クロスアディクション群、物質依存群）に分けて、関連問題について比較した。

※クロスアディクション群に含まれる総数が7名と少ないため、3群間の比較結果については参考程度とし、慎重な解釈が必要である。



(1) 抑うつ・不安との関連（公的－当事者）

※以下本項において、公的相談機関を利用する当事者の結果を「公的－当事者」と略記する。

【A票：問12】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1: いつも～5: 全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度K6得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。これより、公的相談機関を依存問題で利用する者のうち、5点以上に該当したのは71名で全体の66.4%を占めた。

また、K6得点について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-28）

図表3-28 当事者-K6得点、群別

	抑うつ・ 不安の問題なし 0－4点	何らかの抑うつ・ 不安の問題あり 5－9点	抑うつ・ 不安障害の疑い 10－12点	重度の抑うつ・ 不安障害の疑い 13点以上	全体
ギャンブル依存群	21 (33.9%)	12 (19.4%)	13 (21.0%)	16 (25.8%)	62 (100.0%)
物質依存群	14 (36.8%)	13 (34.2%)	5 (13.2%)	6 (15.8%)	38 (100.0%)
クロス アディクション群	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	36 (33.6%)	28 (26.2%)	19 (17.8%)	24 (22.4%)	107 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=2

(2) 希死念慮・自殺企図との関連（公的－当事者）

【A票：問13】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

全体では、「希死念慮がある・あった」と答えた割合が73.5%であった。希死念慮の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-29）

図表3-29 当事者－希死念慮の有無，群別

	希死念慮がある・あった	希死念慮がない	全体
ギャンブル依存群	41 (70.7%)	17 (29.3%)	58 (100.0%)
物質依存群	29 (78.4%)	8 (21.6%)	37 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)
全体	75 (73.5%)	27 (26.5%)	102 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=6，物質依存群=1

【A票：問14】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

全体では、「自殺企図がある・あった」と答えた割合が22.6%であった。自殺企図の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-30）

図表3-30 当事者－自殺企図の有無，群別

	自殺企図がある・あった	自殺企図がない	全体
ギャンブル依存群	9 (14.8%) *	52 (85.2%) *	61 (100.0%)
物質依存群	12 (31.6%)	26 (68.4%)	38 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (42.9%)	4 (57.1%)	7 (100.0%)
全体	24 (22.6%)	82 (77.4%)	106 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=3

（3）小児期逆境体験との関連（公的 - 当事者）

【A票：問35】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。
（複数選択）

全体では、小児期逆境体験が1つ以上該当する割合は50.0%であった。また、該当者の割合が最も高かったのは「学校でのいじめ被害」であった。小児期逆境体験の有無、また、個別の小児期逆境体験項目ごとの該当有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、どちらも有意差は認められなかった。（図表3-31・図表3-32）

図表3-31 当事者－小児期逆境体験の有無，群別

	小児期逆境体験		
	該当なし	1つ以上該当	全体
ギャンブル依存群	31 (56.4%)	24 (43.6%)	55 (100.0%)
物質依存群	14 (41.2%)	20 (58.8%)	34 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (42.9%)	4 (57.1%)	7 (100.0%)
全体	48 (50.0%)	48 (50.0%)	96 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 4

図表3-32 当事者－小児期逆境体験項目ごとの該当数・割合，群別

	心理的虐待を受けた	家庭内暴力（DV）を目撃した	精神疾患がある人との同居	アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	身体的虐待を受けた
ギャンブル依存群	7 (12.7%)	7 (12.7%)	5 (9.1%)	6 (10.9%)	7 (12.7%)
物質依存群	6 (17.6%)	7 (20.6%)	3 (8.8%)	3 (8.8%)	5 (14.7%)
クロスアディクション群	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
全体	14 (14.6%)	15 (15.6%)	9 (9.4%)	9 (9.4%)	13 (13.5%)

	ネグレクト（養育の放棄）を受けた	性的虐待を受けた	両親の離婚	刑務所に入ったことがある人との同居	学校でのいじめ被害
ギャンブル依存群	4 (7.3%)	0 (0.0%)	11 (20.0%)	1 (1.8%)	11 (20.0%)
物質依存群	1 (2.9%)	1 (2.9%)	6 (17.6%)	1 (2.9%)	6 (17.6%)
クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)
全体	5 (5.2%)	1 (1.0%)	18 (18.8%)	2 (2.1%)	19 (19.8%)

※欠損数：ギャンブル依存群 = 9, 物質依存群 = 4

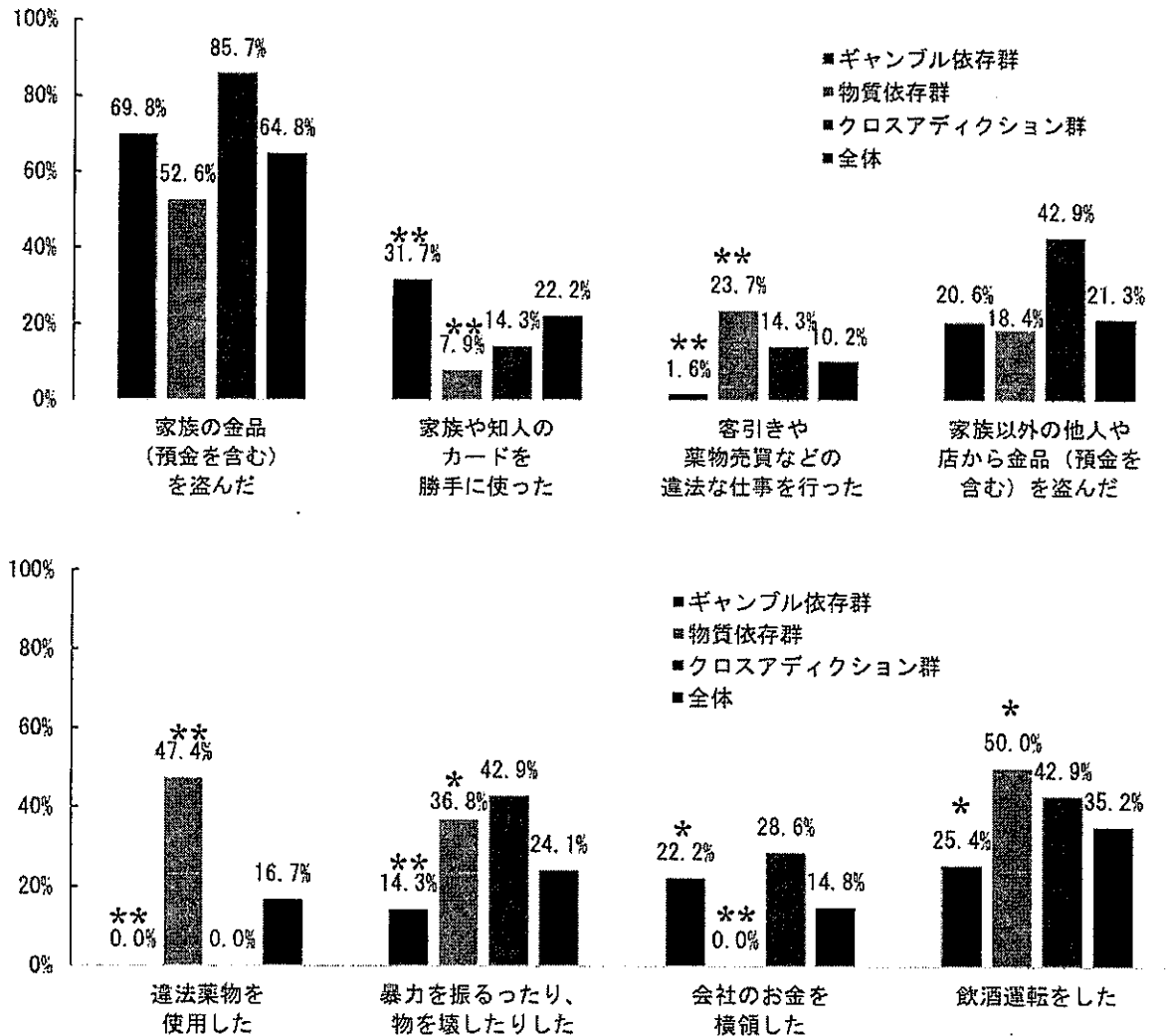
(4) 触法行為との関連（公的－当事者）

【A票：問37】 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

全体では、該当者の割合が最も高いのは「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」であった。触法行為を含む問題行為の該当割合について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、下記に有意差を認めた。

ギャンブル依存群は、物質依存群に比べて「家族や知人のカードを勝手に使った（ $\chi^2(2)=8.074, p<.05$ ）」、「会社のお金を横領した（ $\chi^2(2)=10.398, p<.01$ ）」に該当する割合が有意に高く、「客引きや薬物売買などの違法な仕事をを行った（ $\chi^2(2)=12.789, p<.01$ ）」「違法薬物を使用した（ $\chi^2(2)=39.789, p<.01$ ）」「暴力を振るったり、物を壊したりした（ $\chi^2(2)=8.043, p<.05$ ）」「飲酒運転をした（ $\chi^2(2)=6.485, p<.05$ ）」割合が有意に低かった。（図表 3-33）

図表 3-33 当事者－触法行為を含む問題行為の該当割合、群別



※欠損数：ギャンブル依存群 = 1 *：残差分析結果有意差あり * $p<.05$, ** $p<.01$

※ギャンブル依存群 $n = 63$, 物質依存群 $n = 38$, クロスアディクション群 $n = 7$

(5) 養育困難との関連（公的－当事者）

【A票：問38】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）
（養育困難）

子育て経験のある回答者全体では、依存の問題があることで養育困難があると答えた割合は、54.0%であった。養育困難の有無について、依存対象による3群間の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-34）

図表3-34 当事者－依存の問題があることによる養育困難の有無，群別

	養育困難あり	養育困難なし	全体
ギャンブル依存群	18 (46.2%)	21 (53.8%)	39 (100.0%)
物質依存群	13 (61.9%)	8 (38.1%)	21 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	34 (54.0%)	29 (46.0%)	63 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=25，物質依存群=17，クロスアディクション群=4

【A票：問39】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）

子育て経験のある回答者全体では、依存の問題があることで子どもへの虐待の経験があると答えた割合は、36.5%であった。子どもへの虐待の経験の有無について依存対象による3群間の違いを検証したところ、ギャンブル依存群はクロスアディクション群と比べ、子どもへの虐待経験のある割合が有意に低かった。（ $\chi^2(2) = 8.323, p < .05$ ）（図表3-35）

図表3-35 当事者－依存の問題があることによる子どもへの虐待経験の有無，群別

	子どもへの虐待経験あり	子どもへの虐待経験なし	全体
ギャンブル依存群	10 (25.6%) *	29 (74.4%) *	39 (100.0%)
物質依存群	10 (47.6%)	11 (52.4%)	21 (100.0%)
クロスアディクション群	3 (100.0%) *	0 (0.0%) *	3 (100.0%)
全体	23 (36.5%)	40 (63.5%)	63 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=25，物質依存群=17，クロスアディクション群=4

※*：残差分析結果：有意差あり * $p < .05$

(6) クロスアディクション（公的－当事者）

【A票：問30-32】 AUDIT-C（アルコール問題のスクリーニングテスト）

全体では、男性で5点以上は31.7%、女性で4点以上は16.7%であった。依存対象による3群と、AUDIT-C得点の違いを検証したところ、男性、女性ともに有意差は認められなかった。（図表3-36）

図表3-36 当事者－AUDIT-C得点，群別

	AUDIT-C得点区分（男性）				AUDIT-C得点区分（女性）		
	0-4点	5点以上	全体		0-3点	4点以上	全体
ギャンブル依存群	29 (65.9%)	15 (34.1%)	44 (100.0%)	ギャンブル依存群	4 (80.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
物質依存群	22 (71.0%)	9 (29.0%)	31 (100.0%)	物質依存群	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
クロスアディクション群	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7 (100.0%)	クロスアディクション群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	56 (68.3%)	26 (31.7%)	82 (100.0%)	全体	5 (83.3%)	1 (16.7%)	6 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=15、物質依存群=6

【A票：問34】 以下のそれぞれの質問について、過去1年間のあなたにあてはまりますか。それぞれ「全くなかった」「ときどきあった」「よくあった」から選んで○をつけてください。（単一選択）
（IGDT-10、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト）

IGD-10による「インターネットゲーム障害が疑われる者」の割合は、2.8%であった。依存対象による3群と、IGDT-10得点の違いを検証したところ、有意差は認められなかった。（図表3-37）

図表3-37 当事者－IGDT-10得点，群別

	IGDT-10得点区分		
	0-4点	5点以上	全体
ギャンブル依存群	61 (96.8%)	2 (3.2%)	63 (100.0%)
物質依存群	37 (97.4%)	1 (2.6%)	38 (100.0%)
クロスアディクション群	7 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
全体	105 (97.2%)	3 (2.8%)	108 (100.0%)

※欠損数：ギャンブル依存群=1

3.6.7 自助グループ有志における関連問題

（1）抑うつ・希死念慮・自殺企図との関連（自助G）※

※以下本項において、ギャンブル問題の自助グループ有志を「自助G」と略記する。

【A票：問12】 過去30日の間に、どれくらいの頻度で以下のことがありましたか。下記の①～⑥の質問について、最も適当と思われる番号（1: いつも～5: 全くない）を選んで○をつけてください。（単一選択）

抑うつ・不安のスクリーニング尺度K6得点では、5点以上を「抑うつ・不安の問題あり」とする。自助グループを利用する者のうち、5点以上に該当したのは89名で全体の56.3%を占めた。

（図表3-38）

図表3-38 当事者－K6得点

		男性	女性	全体
K6得点区分	0－4点	64 (45.7%)	5 (27.8%)	69 (43.7%)
	5－9点	38 (27.1%)	6 (33.3%)	44 (27.8%)
	10－12点	17 (12.1%)	3 (16.7%)	20 (12.7%)
	13点以上	21 (15.0%)	4 (22.2%)	25 (15.8%)
	全体	140 (100.0%)	18 (100.0%)	158 (100.0%)

※欠損数：7

【A票：問13】 あなたは、これまでに自殺したいと考えたことがありますか。（単一選択）

希死念慮の経験がある・あった者は、全体の73.9%であった。（図表3-39）

図表3-39 当事者－希死念慮の有無

	男性	女性	全体
希死念慮がある・あった	103 (73.0%)	13 (81.3%)	116 (73.9%)
希死念慮がない	38 (27.0%)	3 (18.8%)	41 (26.1%)
全体	141 (100.0%)	16 (100.0%)	157 (100.0%)

※欠損数：6

【A票：問14】 あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか。（単一選択）

自殺企図の経験がある・あった者は、全体の28.9%であった。（図表3-40）

図表3-40 当事者－自殺企図の有無

	男性	女性	全体
自殺企図がある・あった	38 (27%)	8 (44.4%)	46 (28.9%)
自殺企図がない	103 (73%)	10 (55.6%)	113 (71.1%)
全体	141 (100.0%)	18 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：6

（2）小児期逆境体験との関連（自助G）

【A票：問35】 あなたが18歳までに経験したことがあるもの全てに○をつけてください。
（単一選択）

小児期逆境体験に1つ以上該当する者の割合は、全体の58.1%であった。小児期逆境体験のうち該当した割合が高い項目は、「学校でのいじめの被害」34.5%，次いで「心理的虐待を受けた」22.3%，「アルコール依存や薬物乱用のある人との同居」14.2%であった。（図表3-42）

図表3-41 当事者－小児期逆境体験の有無

	男性	女性	全体
該当なし	57 (43.8%)	5 (27.8%)	62 (41.9%)
1つ以上該当	73 (56.2%)	13 (72.2%)	86 (58.1%)
全体	130 (100.0%)	18 (100.0%)	148 (100.0%)

※欠損数：17

図表3-42 当事者－小児期逆境体験項目ごとの該当数・割合

	男性 (n=130)	女性 (n=18)	全体 (n=148)
心理的虐待を受けた	29 (22.3%)	4 (22.2%)	33 (22.3%)
家庭内暴力（DV）を目撃した	13 (10.0%)	4 (22.2%)	17 (11.5%)
精神疾患がある人との同居	5 (3.8%)	4 (22.2%)	9 (6.1%)
アルコール依存や薬物乱用のある人との同居	16 (12.3%)	5 (27.8%)	21 (14.2%)
身体的虐待を受けた	8 (6.2%)	4 (22.2%)	12 (8.1%)
ネグレクト（養育の放棄）を受けた	2 (1.5%)	3 (16.7%)	5 (3.4%)
性的虐待を受けた	2 (1.5%)	3 (16.7%)	5 (3.4%)
両親の離婚	10 (7.7%)	6 (33.3%)	16 (10.8%)
刑務所に入ったことがある人との同居	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
学校でのいじめ被害	42 (32.3%)	9 (50.0%)	51 (34.5%)

※欠損数：17

（3）触法行為との関連（自助G）

【A票：問37】 あなたは、下記のリストに掲げる行為をしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数選択）

触法行為を含む問題行為のうち該当した割合が最も高かったのは、「家族の金品（預金を含む）を盗んだ」70.3%であった。次いで、「家族や知人のカードを勝手に使った」32.9%，「家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ」31.0%，「会社のお金を横領した」29.0%であった。（図表3-43）

図表3-43 当事者－触法行為を含む問題行為ごとの該当数・割合

	男性 (n=138)	女性 (n=17)	全体 (n=155)
家族の金品（預金を含む）を盗んだ	100 (72.5%)	9 (52.9%)	109 (70.3%)
家族や知人のカードを勝手に使った	47 (34.1%)	4 (23.5%)	51 (32.9%)
客引きや薬物売買などの違法な仕事を行った	5 (3.6%)	1 (5.9%)	6 (3.9%)
家族以外の他人や店から金品（預金を含む）を盗んだ	46 (33.3%)	2 (11.8%)	48 (31.0%)
違法薬物を使用した	6 (4.3%)	0 (0.0%)	6 (3.9%)
暴力を振るったり、物を壊したりした	26 (18.8%)	4 (23.5%)	30 (19.4%)
会社のお金を横領した	42 (30.4%)	3 (17.6%)	45 (29.0%)
飲酒運転をした	42 (30.4%)	1 (5.9%)	43 (27.7%)

※欠損数：10

（4）養育困難との関連（自助G）

【A票：問38】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで子育てが難しいと感じたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。（単一選択）

これまでに子育てをしたことがない者66名を除く99名の回答結果を以下に提示する。自助グループ有志全体の66.3%が、依存の問題があることで養育困難があったと回答した。（図表3-44）

図表 3-44 当事者－依存の問題があることによる養育困難の有無

	男性	女性	全体
養育困難あり	48 (66.7%)	7 (63.6%)	55 (66.3%)
養育困難なし	24 (33.3%)	4 (36.4%)	28 (33.7%)
全体	72 (100.0%)	11 (100.0%)	83 (100.0%)

※欠損数：16

【A票：問39】 あなたはこれまでに、依存の問題があることで、子どもに対して、心理的な虐待（子どもを傷つける言葉を言う、夫婦間暴力をみせるなど）や身体的虐待（たたく、けるなど）や、ネグレクト（必要な世話をしない、子どもに愛情のある関わりをもてないなど）のいずれかのことがありましたか。（単一選択）

これまでに子育てをしたことがない者63名を除く102名の回答結果を以下に提示する。自助グループ有志全体の44.7%がこれまでに、依存の問題があることで、子への虐待経験があると回答した。（図表3-45）

図表 3-45 当事者－子どもへの虐待経験の有無

	男性	女性	全体
子への虐待経験あり	31 (42.5%)	7 (58.3%)	38 (44.7%)
子への虐待経験なし	42 (57.5%)	5 (41.7%)	47 (55.3%)
全体	73 (100.0%)	12 (100.0%)	85 (100.0%)

※欠損数：17

(5) クロスアディクション（自助G）

【A票：問30-32】 AUDIT-C（アルコール問題のスクリーニングテスト）

自助グループ有志におけるアルコール問題を有する者の割合は、男性 34.6%、女性 11.8%であった。
（図表 3-46）

図表 3-46 当事者－AUDIT-C 得点

AUDIT-C 得点区分 (男性)	該当人数	割合	AUDIT-C 得点区分 (女性)	該当人数	割合
0－4 点	83	65.4%	0－3 点	15	88.2%
5 点以上	44	34.6%	4 点以上	2	11.8%
全体	127	100.0%	全体	17	100.0%

※欠損数：21

【A票：問33】 あなたは過去1年間、ゲームをしたことがありますか。ここでいう「ゲーム」とは、ゲーム機、パソコン、スマホなどを使ったゲームのことです。（単一選択）

自助グループ有志におけるゲームの経験のある者は、71.4%であった。（図表 3-47）

図表 3-47 当事者－ゲームの経験の有無

	男性	女性	全体
ゲームの経験あり	98 (72.1%)	12 (66.7%)	110 (71.4%)
ゲームの経験なし	38 (27.9%)	6 (33.3%)	44 (28.6%)
全体	136 (100.0%)	18 (100.0%)	154 (100.0%)

※欠損数：11

【A票：問34】 以下のそれぞれの質問について、過去1年間のあなたにあてはまりますか。
それぞれ「全くなかった」「ときどきあった」「よくあった」から選んで○をつけてください。（単一選択）
（IGDT-10、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト）

自助グループ有志において、インターネットゲーム障害のスクリーニングテスト（IGD-10）による「インターネットゲーム障害の疑いのある者」は、全体の 2.6%（男性 2.9%、女性 0.0%）であった。
（図表 3-48）

図表 3-48 当事者－IGDT-10 得点

IGDT-10 得点区分	男性	女性	全体
0－4 点	136 (97.1%)	19 (100.0%)	155 (97.6%)
5 点以上	4 (2.9%)	0 (0.0%)	4 (2.6%)
全体	140 (100.0%)	19 (100.0%)	159 (100.0%)

※欠損数：6